ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●３号球●32枚パネル

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●２号球●32枚パネル

巻頭言

全国ハンドボール愛好者の皆さんで「がんばれハンドボール10万人会」を育てよう！

「がんばれハンドボール10万人会」推進本部長　佐分正典

（財）日本ハンドボール協会の今年度の主事業として、ハンドボール人口の拡大を図るため登録制度の改正が行なわれました。日本協会への登録人口１０万人を目標に、チーム、役員、選手をはじめ運営委員、審判員、そしてハンドボールを支えるサポーターとして「がんばれハンドボール１０万人会」を発足させることになりました。私は、このたび全国９ブロック協会の代表として、この大きな事業の推進役として本部長を引き受けることになりました。副本部長には、実業団連盟・近森克彦理事、学生連盟・福地賢介理事、高等学校体育連盟・佐藤喜一理事のご協力をいただき日本のハンドボール界を支援する大事業に取り組むことになりました。

さて、日本ハンドボール界は今、シドニーオリンピック男女出場を最大の目標に、ナショナルチームを柱とするトップ強化を重点に、小学生、中学生、高校生、高専、大学生、クラブ、実業団、日本リーグ、そしてハンドボールを愛好するリージョナルの皆さんが全国各地、各大会で活動しています。この活動を活性化するために多角的な支援が必要です。そのために日本協会では、市原専務理事から平成１１年度の活動重点方針が発表されました。

◎全国参加のハンドボール文化の構築

1.新登録制度「がんばれハンドボール１０万人会」の推進

2.男女ナショナルチームのオリンピック出場権獲得のためアジア予選に最大の支援をする

この方針をもとに「がんばれハンドボール１０万人会」推進本部では長期計画をたて、次のように目標を設定し毎年着実な支援の拡大を考え皆様のご協力をお願いしたいと思います。

第１目標：平成１２年度までに、特別会員、グランド会員、ファミリー会員を１万人とする。

第２目標：平成１５年度までに、各年度に卒業・引退する登録者を含め、特別会員、グランド会員、ファミリー会員を３万人とする。

第３目標：平成２０年度までに「がんばれハンドボール１０万人会」を完成する。

この目標を現実化するために、今年度は日本協会評議委員の皆様にご尽力いただき会員の勧誘をお願いする。また、推進本部を中心とした実行委員会を発足させ、全国都道府県協会から推進委員をお願いし、それぞれの地域の会員の拡大に尽力いただきたいと思います。

推進本部は、日本協会事務局とともに、過去に日本協会、ブロック協会、全国連盟にかかわった皆様、ナショナル選手・監督・コーチとして活躍し引退された皆様に再度登場していただき、ハンドボールのサポーターとして、もう一度ご協力いただき、重点的にその地域の支援体制づくりを行う。そして、会員勧誘活動の年間スケジュールを組み、地道な勧誘計画を考えています。さらに、日本協会が主催するイベントはもちろんのこと「がんばれハンドボール１０万人会」の仲間が集まる機会を地域ごとに計画し、ハンドボールフォーラム、ハンドボールフェスティバル、ナショナル選手の壮行会等、多くの機会にサポーターの皆さんと選手が接する機会を多く計画したいと思います。

どうか全国各地の皆様、ハンドボールを愛好する皆様、全ての皆様でハンドボールをサポートしようではありませんか。ある方は協会の運営に、ある方は協賛者に、競技組織に、ある方はプレーヤーに、それぞれの立場にからサポートする時代に変遷しようとしています。皆様の絶大なご理解をいただき日本ハンドボール界に新風を起こし、日本のスポーツ界に１０万人の登録人口の団体として（財）日本ハンドボール協会を発展させようではありませんか。どうぞ深甚なるご尽力とご協力をお願いする次第です。

第12回世界女子ジュニア選手権大会報告

日本女子ジュニアチーム、残念ながら19位に

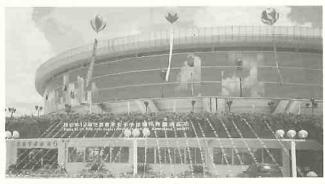
■第12回世界女子ジュニア選手権大会に参加して

日本選手団団長　山下　泉（日本協会筆頭常務理事）

8月1日から13日まで中国南部の4都市で開催され、日本は主会場の珠海市（Aグループ）で、中国、ロシア、ブラジル、オランダによる予選リーグを戦った。

第1戦は地元の中国と対戦、珠海体育館は5000人の大観衆で超満員、開会式後の異様な雰囲気、中国一色の応援の中で行われた。ゲームの流れは終始中国のペースで9点差の敗戦。第2戦は強豪ロシアに一方的に押し切られ大差の負け、この2試合のショックから立ち直れず、モチベーションが下がった状況でオランダ、ブラジルと対戦、接戦はするもののリードすることなく、予選リーグ4敗となり順位決定に廻ることになった。最終的にはカナダに勝って20チーム中、19位（前回大会8位）と極めて不本意な結果で惨敗となった。

この大会の不振を分析すると、①国際試合の経験がほとんどなく、日本リーグでも準レギュラーか補欠の選手が多くゲーム感に欠けていた。(反面2人の大学生選手の思い切りのよいプレーが目立った。)②チームの選手編成にいまだ非協力的な姿勢があり、ベストメンバーが組めなかった。③チームリーダー不在で他人に依存型の選手が多くみられた。(指示待ち人間)上位入賞のチームには数人のナショナル選手が加わっておりチームの牽引者になっていた。④大会前日に現地入りで調整不足が目立った。せめて2日前には到着が望ましい等、原因は色々と挙げられるが基本的には体力、気力、スピード、技術力（パス、キャッチ、フェイント等の基本）ともに劣っていたといえるだろう。しかし、この苦い経験を生かし、大きな糧にして努力をすれば道は開かれ、国際レベルの試合経験を積ませた最強の選手で挑戦すればベスト8位に入れるチャンスはある。協会全体で長期的な視野に立って強化体制の再構築に真剣に取り組む必要がある。現状では世界との差は開くばかりであり、更にアジアの中国、中華台北などに後塵を拝することになる。

この大会で目立ったことは、各国ともジュニア層の強化を急速に進めており、後進国と見られていたブラジルやコンゴなどの近年における進歩が目覚ましいことです。またＩＦ審判の判定の不統一が目立ち、ＩＦの指導力不足を感じた。そんな中で女性レフェリー（スウェーデン）のニールソンとハーゲンの適格なジャッジは新鮮で好印象をうけた。又、各国の女子チームのスタッフの中に女性を起用し、意思の疎通を重要視しており、日本も女子コーチの起用を考えなくてはならない問題点だろう。

開催国の中国協会の鈡添岦主席、胡建国副主席の好意に感謝し、日本に留学し日本リーグなどの運営経験を生かし、記録係のリーダーとして活躍していた呉国忠君の日本チームへのサポートは大きな戦力となった。

■第12回世界女子ジュニア選手権を終えて

日本チーム監督　井上亮一（夙川学院高校）

私自身、コーチ時代を含め、3度目の世界選手権の参加になり、選手強化のあり方や世界選手権でのレフェリングの違いなど承知の中で、今回のジュニアチームを編成して参りましたが、海外遠征や国際試合の乏しい今回の選手達に対して、前回以上の成績を収めようとしていた私が、選手権に対して大きなプレッシャーを与えていたのかと反省ばかりであります。自分が犠牲になってでも多くの経験をさせてやれなかったことに対し選手達に本当に申し訳のないことをしたと謝りたいと思います。このようなことが私

と選手間との摩擦がおこり、お互いに信頼感のない状態が続き、日本ジュニア史上初めての20ケ国参加中の19位という成績に結びついていったのではないかと思います。選手達はこのような悪環境の中でも、持っている能力を精一杯出そうと努力をしましたが、プレッシャーからすべてが空回りに終わり、気がつけば最悪の成績で終わってしまったということです。しかし選手達にはこのような大変な経験をこれからのハンドボール生活に生かし、大きく成長し頑張っていって頂きたいと思います。世界の各国をみてもジュニアにかける期待度は非常に高く、若い選手達を多く経験させるため、15才・16才位で世界選手権に４～５名を１度参加させ、２度目の参加でチーム成績も個人も良い成果を残しているケースが多く見られました。日本にも素晴らしい素質を持った中学生や高校生が多くいます。この選手達が世界の舞台で多くの経験を積めば、日本ジュニアも少しは変わってくるのではないかと思います。目先だけの強化にとらわれず、将来を含んだ強化こそが本当の強化につながり、世界の中でも安定した成績につながっていくのではないだろうか。そのためには国内のスケジュールの整備など数多くの問題を抱えております。できるだけ早く検討し整備をお願いしたく思います。今大会では多くのことを経験させていただきました。チーム作りの難しさなどを学

びました。これからの指導に生かしていきたいと思います。最後に国内での強化合宿では和歌山県協会の皆様や兵庫県高体連の皆様には大変お世話になりました。また、関係各位にはご助言など多くいただき、大いに励まされました。本当にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

■第12回世界女子ジュニア選手権大会に審判員として参加して

国際審判員　浜田浩和・小笠原久郎

私達の手元に、国際連盟から世界女子ジュニア（中国大会）のレフェリーとしてノミネートの文章が届いたのが、３月でした。そして、約四ケ月の準備期間を経て７月30日に日本を発ちました。

大会は、中国広東省・広洲の４会場で開催され、16ペアのレフェリーが参加しました。このうち５ペアが以前に世界学生大会で一緒になり、懐かしく思えると同時に心強くも思えました。さらに、隣の中国で時差も１時間、日本からの移動も困難を来さなかったため条件的にも恵まれていました。

中国入りした翌30日に、ミニコースとして体力テスト、ペーパーテスト、ビデオテストがＩＨＦ・ＰＲＣのコントロールで実施されました。エジプトの男子世界選手権でも２ペアが体力テストで不合格となり自国に帰されたが、今回も４人が追試のうえ２人が不合格で、地元中国とアルゼンチンの２ペアが自国に帰された。以前、熊本の世界選手権でもミニコースがあり、そこでもシャトルランをして採血から乳酸値を量ったが、現在はより厳しくなり、時速９キロという数字を下回ると審判に適さないと言うことでした。

左：小笠原氏、右：浜田氏

試合は、８月１日より４会場に分かれ予選リーグが行われ、私達は、Ｄグループで２試合を担当し、良い結果を得ることが出来、１週間後の２次リーグには、上位リーグに移動することになりました。しかし、そこで地元中国とノルウェーの20対20の激戦を担当し、ＩＨＦ・ＰＲＣには中国寄りの笛だったと評価され、不合格に終わった。私達にとっては、大きな壁にぶつかった思いでした。幸いにも４日後の順位決定（15－16位）戦を担当し、そこで合格点を得て周囲のレフェリーからも祝福を受け、無事私達の仕事を終えることが出来ました。今回初めて大きな大会に参加して、アジアとヨーロッパのレフェリーの差やベンチ・選手からの信頼度など実感すると同時にこれからの審判活動に役立て、少しでも彼らの仲間入りを出来るように努力していきたいと思います。

最後に、今大会でテクニカル・デレゲイトとしてＩＨＦ役員の渡邊副会長が、オフィシャル席でゲームをコントロールされるなど、私達にとっては心強かったことと同時に大変お世話になり感謝しております。また、現地で励ましの言葉を頂きました市原専務をはじめ協会各関係者、審判諸先輩方にこの場をお借りしてお礼を申し上げ、報告にかえさせて頂きたいと思います。

試合結果

■予選リーグ

【Ａ組】

ロシア　24—17　オランダ

中　国　27—18　日　本

［戦評］日本１：２：３ＤＦ、中国１：５ＤＦ、16分まで渡邊のカットイン、菅谷のステップで７—７。その後、日本のパスミス、シュートミスなどでリズムがくずれ、中国に６点を先行されなんとか日本も高屋のポスト、加治木のサイド、菅谷のステップで３点差で前半を終わる。後半、日本はＤＦを一線にもどし、屋嘉の２連打とテクニックからＰＴをさそい、渡辺で10分までに２点差まで追い上げ、メンバーを替えながらチャンスをつくるが、後半12本のノーマークシュートをミスし、中国に得点を与えてしまった。地元体育館いっぱいの大応援団につぶされた感があった。国際経験の差か？　しかし、日本にもチャンスがあるはず。今後の試合に期待したい。

ブラジル　24—17　オランダ

ロシア　33—17　日　本

［戦評］立ち上がり15分までは、ディフェンス、オフェンスもよく頑張り、菅谷のステップ、早船の変則シュート、屋嘉のテクニックなど互角に戦うが、体力差が少しずつ出はじめ、日本の消極的な攻めからロシアの速攻にあい、日本は残り15分は３点のみ。後半は、レフェリーが同様な反則に対してロシアには警告のみ、日本に対しては退場、ペナルティーなどでリズムに乗れず、また、日本は消極的にパスミス、速攻ミスなどでくずれ大差となる。レフェリーは、ノルウェーの女性ペア。

中　国　33—17　ブラジル

オランダ　18—17　日　本

［戦評］決勝トーナメントへ残るための大切なゲーム。今までの２ゲームよりもＤＦでよく足が動き、体力勝負のゲームになった。前半、オランダに先行されるが、日本も安心院の好リードで得点し、前半は９—12。後半15分まで、14—15の１点差まで追い込み、20分まで両チームとも五分。１点差を追って残り20秒、ＤＦからカットを狙いカットするが、レフェリーの判定はオランダボールになり、17—18で終了する。日本はＤＦで体をはり、速攻も出はじめチームらしくなってきた。予選リーグ最後のブラジル戦に勝利を期待したい。

オランダ　17—14　中　国

ロシア　24—15　ブラジル

ブラジル　23—20　日　本

［戦評］前半立ち上がり、日本、ブラジルともＰＴをはずし、３分まで両チームとも得点なし。日本・早船の得点で動き出し15分まで４—６。ブラジルのエース４番が、日本速攻に対してハッキングでレッドカード、日本にチャンスがくるが、ＰＴ失敗、相手ＤＦ５人に対して攻め切れず、残り10分、ブラジル左右サイド、ポスト、センターに得点されたが、日本も近藤の速攻、菅谷のステップ、早船のミドルで７—10で前半を終わる。後半、日本ＤＦ、ＯＦとも積極的になり、20分までに同点と２回追いつくが、日本は速攻ミス３回、セットでのミス２回で相手に得点され、20—22。残り２分、ＤＦで踏ん張るが、相手の体をあずける攻めに対して１点返され、日本も２度速攻のチャンスをつくるがパスミスで終わる。

日本は予選リーグ５位。悪コンディションの中、体調も良くない状態であるが、まだ13位以下のリーグが３試合あり、選手全員全力で戦い、経験を積んでいきたい。

ロシア　25—15　中　国

【Ｂ組】

ルーマニア　30—16　アイスランド

ノルウェー　41—19　コンゴ

ノルウェー　27—25　ルーマニア

ハンガリー　28—20　アイスランド

ハンガリー　27—17　コンゴ

ハンガリー　28—26　ノルウェー

ノルウェー　36—20　アイスランド

ルーマニア　34—20　コンゴ

コンゴ　17—14　アイスランド

ルーマニア　37—22　ハンガリー

【Ｃ組】

韓国　27—21　スロバキア

ユーゴスラビア　38—10　カナダ

トルコ　36—17　カナダ

ユーゴスラビア　24—20　スロバキア

トルコ　26—23　スロバキア

ユーゴスラビア　34—25　韓国

韓国　39—12　カナダ

トルコ　27—23　ユーゴスラビア

スロバキア　35—12　カナダ

韓国　38—27　トルコ

【Ｄ組】

リトアニア　31—27　アンゴラ

デンマーク　33—15　台湾

リトアニア　20—17　デンマーク

スペイン　33—22　アンゴラ

スペイン　25—13　台湾

デンマーク　30—17　アンゴラ

リトアニア　28—20　台湾

デンマーク　22—18　スペイン

台湾　29—20　アンゴラ

リトアニア　27—23　スペイン

■13～20位決定予備リーグ

【ＡＢ組】

アイスランド　20—16　日本

［戦評］立ち上がり５分、安心院のステップ、岡田の速攻、早船のミドルで３—２とリード。その後、10分までアイスランドのブロックプレーでＤＦがくずされ５連続失点。やっと菅谷のステップで１点返すが、４—７。12～20分まで、日本の速攻２本、ＰＴなどチャンスがくるが、オーバー、着地の判定。20～30分まで、日本３得点、アイスランド３得点で、７—10で前半を終わる。後半、日本も安心院の好リードで攻めるが、９得点。対するアイスランドは10得点。日本もＤＦを恐れず攻めるが、レフェリーの理解できない判定で力つきる。やはり日本のサイドシュートの少なさに対して、ヨーロッパのチームは得点力がある。残りのコンゴ戦ともう一戦全力を尽くしたい。

オランダ 28—23 アイスランド
コンゴ 22—19 日本

［戦評］日本一線ＤＦをバネと脚力で割られ、出だしは３失点。日本・早船、菅谷、屋嘉で３点を返すが、マイボールからの速攻のパスミス、セット攻撃でのチグハグなプレーでリズムをくずしている間、コンゴのセンター７番、45度８番、左サイド11番に得点される。日本はサイド屋嘉の速攻で返し、前半は８—10。後半立ち上がり、速攻で１点返すがその後５失点。日本も10分すぎ得点を返し２点差まで追い上げるが、再び失点する。中村も初出場しＰＴで２ゴールするが、19—22で終わる。

この結果、日本は19～20位決定戦へまわる。

オランダ 27—25 コンゴ

【ＣＤ組】

アンゴラ 32—21 カナダ
スロバキア 33—25 アンゴラ
台湾 27—19 カナダ
スロバキア 30—24 台湾

■準決勝リーグ

【ＡＢ組】

ハンガリー 23—20 ロシア
ルーマニア 30—18 ブラジル
中国 20—20 ノルウェー
ハンガリー 27—23 ブラジル
ルーマニア 21—17 中国
ロシア 23—16 ノルウェー
ハンガリー 21—15 中国
ノルウェー 26—14 ブラジル
ルーマニア 20—19 ロシア

【ＣＤ組】

スペイン 30—25 ユーゴスラビア
リトアニア 27—25 トルコ
デンマーク 29—28 韓国
トルコ 21—21 スペイン
韓国 36—22 リトアニア
ユーゴスラビア 22—21 デンマーク
スペイン 29—26 韓国
デンマーク 27—23 トルコ
リトアニア 29—26 ユーゴスラビア

■19—20位決定戦

日本 27—15 カナダ

［戦評］日本、19—20位決定戦、世界選手権最後のゲーム。相手はカナダ。立ち上がり気迫あるプレーで試合を押し気味に進めるが、５分間、カナダのミスにも助けられ両チームとも無得点。カナダにＰＴで先行されたが、安心院、屋嘉などの速攻、ミドルで得点を重ね、前半は16—７。後半、カナダのミスを速攻、ミドルで加点し27—15で終了。　日本19位（20チーム中）で終わる。世界選手権が経験の場でなく、もう少し多くのトレーニングとヨーロッパチームとのトレーニングマッチを積んで参加したかったとスタッフ一同感じています。

世界の流れは、ジュニアに力を注ぎ、それがナショナルチームに生かされている感があります。不十分な成果しか残せなくて申し訳ありませんでした。ご協力、ご支援ありがとうございました。

■17—18位決定戦

アンゴラ 20—19 アイスランド

■15—16位決定戦

コンゴ 23—12 台湾

■13—14位決定戦

オランダ 23—22 スロバキア

■11—12位決定戦

トルコ 29—27 ブラジル

■９—10位決定戦

韓国 27—23 中国

■７—８位決定戦

ノルウェー 38—27 ユーゴスラビア

■５—６位決定戦

ロシア 30—21 スペイン

■決勝トーナメント準決勝

ルーマニア 30—19 デンマーク
リトアニア 24—20 ハンガリー

■３—４位決定戦

デンマーク 25—20 ハンガリー

■決勝戦

ルーマニア 25—20 リトアニア

個人得点表

		中国	ロシア	オランダ	ブラジル	アイルランド	コンゴ	カナダ	合計
1	浅井	GK	GK	GK	GK	GK	GK	GK	GK
2	近藤	0	0	1	1	1	0	1	4
3	岡田	0	0	1	—	1	0	1	3
4	高屋	1	0	0	0	—	—	3	4
5	上町	1	—	2	3	0	2	4	12
6	菅谷	3	6	0	3	4	3	1	20
8	中村	—	—	—	—	—	2	—	2
9	加治木	1	1	3	—	1	—	1	7
10	早船	4	5	0	4	3	2	4	22
11	三浦	—	—	1	1	0	1	—	3
13	山本	0	1	—	1	—	—	—	2
14	屋嘉	4	1	—	3	0	5	4	17
17	安心院	—	3	6	3	5	1	6	24
18	渡邉	4	0	3	1	1	3	2	14
16	有馬	GK	GK	GK	GK	GK	GK	GK	GK
	計	18	17	17	20	16	19	27	134

※選手のコメントにつきましては次号に掲載いたします。

第４回ジャパンオープンハンドボールトーナメント
（第55回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会）
男子は、香川クラブの４連覇を阻み、日新製鋼が初優勝
女子は、徳山クラブが２連覇

第４回ジャパンオープンハンドボールトーナメント（2000年富山国体リハーサル大会）は、８月７日から10日まで、日本で一番暑かった富山の氷見市ふれあいスポーツセンターを主会場に、氷見市総合体育館、富山県立氷見高校第一体育館、有磯高校第二体育館で開催された。

ジャパンオープントーナメントも第４回を数え、参加するチームも徐々に充実をしてきた。また、本年度は日本リーグを撤退した日新製鋼がこの大会から全日本総合を目指し、一段とレベルアップをした大会となった。

男子の大会の注目は、この大会創設以来３連覇を続けている香川クラブが、日新製鋼の参加で４連覇を達成できるかが焦点となった。香川クラブは、２回戦で沖縄のパームヒルズクラブと延長の大激戦を制し、決勝へと駒を進めた。一方の日新製鋼は、順当に駒を進め、準決勝では慎重な戦い振りで大同クラブを下し決勝へと進出した。決勝戦では、香川クラブも後半一度は同点に追いつくが、戦力の充実する日新製鋼の前に４連覇を阻まれた。また、３位には地元ケーブルネット氷見が入ったが、来年の国体を控え、スピードと若さのハンドボールを展開した。国体強化の成果が伺えるチームであった。

女子は、徳山クラブの充実ぶりが目立った大会であった。土師、田村、琴野といった日本のトッププレーヤーを中心に、チームもよくまとまり、今大会では他チームより一歩抜きに出ていた。全日本総合での活躍を期待したい。３位には、福井商業高のＯＧを中心に、若さのチーム（J・J GANG）が入った。インターハイで全国制覇をした現役チームも応援に駆けつけ、会場を大いに盛り上げた。

主会場となった
ふれあいスポーツセンター

〈大会の話題〉

◆代表者会議で、ユニフォームチェック

国際大会では慣例であるが、国内大会としては初めて代表者会議でユニフォームのチェックが行われた。現在のユニフォームは、時代を反映し色・柄とも多様なものが使用されている。そのため、言葉の表現だけでは不充分なものがあり、基本的にはＧＫも含め４色が必要なため試合開始直前でのトラブルが発生することもあった。今大会は、この点ではスムーズに運営されたと言えよう。

◀代表者会議で行われたユニフォームチェック

◆大会期間中日本協会グッズを販売

大会期間中は、運営に大忙しの運営役員ではあるが、今大会は、運営側のご協力により、新しく製作された日本協会グッズが販売された。普段では、日本協会まで注文しなければならないだけに、身近に購入できると評判も上々であった。

◆抹茶で接待

遠路はるばる全国各地から参加する選手・役員のため、毎回いろいろな接待が行われるが、今回富山では抹茶の接待が、ふれあいスポーツセンターの一角で行われた。これは地元富山県協会役員の趣味を生かしての接待であり、器もお手製のものだとか。抹茶を運んでくれる係の人の物腰や、縁台の雰囲気は、激しいハンドボールの後には、一服の清涼感となって評判も上々であった。なかには、抹茶よりも一緒に出されるお菓子のほうに目が向いた人もいたとか。また、作法がわからず敬遠した人も。

ふれあいスポーツセンターの一角に
設置されたお茶席

男子

《準決勝》

香川クラブ　３２（１５－１０ / １７－　７）１７　ケーブルネット氷見

立ち上がり堅さの見られるケーブルネット氷見に対し、香川クラブはスピード感あふれる速攻で確実に得点を加える。氷見も８分過ぎ10番小川のロングシュートを皮切りに、15番中川のミドル、４番江幡のポスト、９番屋敷の速攻と

パスをさばく源内

食らいつくが、香川リードで前半を終了。後半に入っても、香川は、攻撃の手を緩めることなく3番田中のロング、4番後藤のポストや速攻で得点を加える。守ってもGK16番黒川が再三好セーブを見せ、必死の攻防を見せる氷見を振り切った。（光安淳子）

日新製鋼 23 (9—10 / 14— 8) 18 大同クラブ

前半10分まではどちらも堅い守りで流れをつかめなかったが、前半10分以降、大同クラブが14番名取のミドルシュートなどで先行し3点差まで点差を広げた。20分以降、日新製鋼が追い上げ、前半終了間際、18番楠原のポストシュートで1点差に追いついて前半を折り返した。後半に入っても一進一退の展開であったが、15分から日新は積極的なディフェンスで大同の攻撃を封じ、混戦を抜け出した。（坪池　宏）

《決勝》

日新製鋼 32 (20—14 / 12—14) 28 香川クラブ

日新製鋼は、20番蔦本のサイドシュートや左腕4番水谷のロングシュートで着実に得点を重ねる。香川クラブも日新の1—2—3ディフェンスに対し、2番加藤のポストプレーで対抗するが、日新リードで前半を終了。後半に入り、香川は速い展開の全員ハンドで反撃にでる。GK黒川も再三の好セーブを見せ、5番高畠の連続ゴールで13分同点とする。20分まで一進一退の攻防を見せるものの、地力にまさる日新が9番林原のロングシュートなどで徐々に香川を引き離し、優勝を手にした。（光安淳子）

女子

《準決勝》

徳山クラブ 27 (21— 5 / 6—14) 19 藤乃

徳山は、試合開始から7連続得点をあげ、波に乗る。4番田村の絶妙なパスワークから速攻をきめ、藤乃を突き放す。守ってもGK1番小林が7MTを好セーブ。前半は、徳山の大量リードで終了した。後半、藤乃も4番村田のサイドシュート、5番柿崎のロングシュートで反撃するが、前半のビハインドをはねかえすことができなかった。

（光安淳子）

かながわガビアーノ 21 (10—11 / 11— 8) 19 J·J GANG

前半、両チームともに堅い守りだった。かながわガビアーノは、ポストプレーを中心として点を取り、一方、J・J　GANGは、パスカットからの速攻や7MTを確実に決めて前半を一点リードで折り返した。

後半、かながわは、同点に追いつくと、9番阿部のポストからの攻撃で逆転に成功した。J・Jは、スピードのあるカットインで追撃したが追いつくことはできなかった。

（浜井孝久）

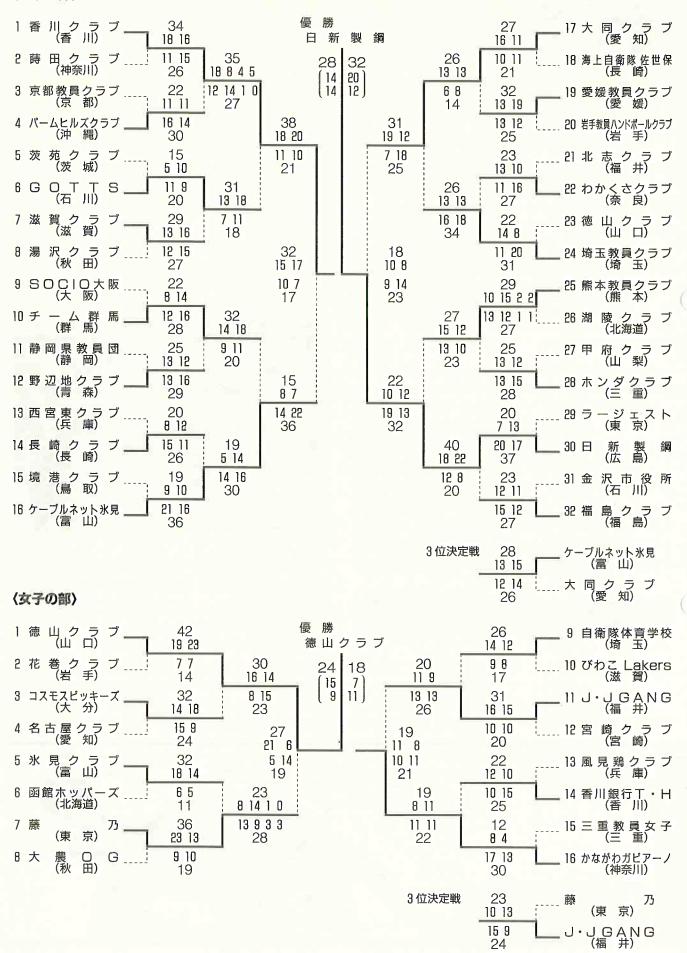
《決勝》

徳山クラブ 24 (15— 7 / 9—11) 18 かながわガビアーノ

徳山クラブの固いDF

立ち上がり、互角の戦いを見せるが、前半10分過ぎから徳山クラブ、センター11番土師を中心とする4番田村のロング、9番琴野のカットインプレーなどで大量得点し、徳山ペースでゲームが展開する。一方、いまひとつリズムに乗れないかながわガビアーノは、フローターとポストでディフェンスをくずすが、堅い守りに阻まれ、攻めあぐむ。後半、かながわ11番亀ケ谷のサイドシュートでリズムを取り戻すが、徳山クラブが得意の速攻で加点し勝負が決まる。徳山クラブの速攻が光ったゲームであった。（新村裕美）

第４回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

（第55回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会）

平成11年度全国高等学校総合体育大会
高松宮賜杯第50回全日本高等学校
ハンドボール選手権大会

◆男子は伊奈（茨城）が初優勝、女子は福井商業が春夏連覇◆

飛び立とう岩手の空に夢はせて（盛岡）インターハイを終えて

全国高体連ハンドボール専門委員長　佐藤喜一

８月１日から７日まで平成11年度全国高等学校総合体育大会・高松宮賜杯第50回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が、盛岡市において開催されました。

なお、この大会は全国高体連ハンドボール専門部の創部50周年にもあたり、記念すべき年に岩手県で開催することには意義深いものがあります。東北地区において最も盛んで伝統のあるここ盛岡市は昭和41年には全国高校総体を開催するなど、ハンドボール競技は盛んな土地柄でもあり、この地において記念すべき創部50周年記念行事を併せて実施することができました。

さて、開会式は岩手県民会館大ホールで、幾筋も流れる川と水、そして「雨にも負けず、風にも負けず」と、地元詩人の宮澤賢治の詩を引用しての、２人の女子生徒のナレーションで開会式が実施され、全選手の見守る中、各校の部旗と主将のみがステージを行進するという趣向の素晴らしい開会式。演技として盛岡一高の応援団の勇壮で、古き昔を感じさせる太鼓に合わせて吟じる応援歌を披露してくれました。

高体連50年の歴史

８月２日夕刻より、全国高体連ハンドボール専門部創部50周年記念式典を挙行しました。式典では、中西敬一元部長はじめ、高体連ＯＢ関係者や地元関係者の多数の出席をいただき、企業５社に感謝状贈呈と特別表彰として新橋満（北海道）はじめ32名、一般表彰者として58名や、優秀校として40回出場高校２校、30回出場５校、20回出場10校、10回出場15校などの表彰式を実施した。

本連盟専門部の50年は、昭和15年より昭和22年の間は、日本協会の主催で神宮大会として全日本中等学校選手権大会として実施され、昭和23年に学制改革により新制高校が発足し同年全国高等学校体育連盟が発足、昭和24年に全国高等学校体育連盟ハンドボール部として、本年度で50周年を迎えることとなり幾多の難関を乗り越え現在に至りました。

50年の月日のなかでは、ハンドボール競技も11人制ハンドボールから昭和38年には男女ともに７人制に移行したり、また、参加数も年を追うごとに各県の高体連加盟をしながら、昭和48年に沖縄県の日本復帰により全県47都道府県の加盟を果たした。その中で、競技ルールも随時変更されるなどしながら、特に試合時間も国際化に伴い20分ハーフから25分に延び、平成11年度からは30分となるなどして競技内容そのものと、下部組織から強く要望されていた年２回の大会開催に、日本協会が要請に応え、春に全国選抜大会という名称で昭和52年に10チームから始まり、現在では36チームという規模を拡大しながら発展しているのが現状です。

このように、今日の隆盛があるのは諸先輩のご指導、ご協力があっての高校ハンドボールが発展しながら飛躍していることは厳然とした事実であり、この50年の歴史を今後も継承し、生徒数の少子化に伴い以下に部員を確保し普及強化につなぐか大課題が残されている現状を見つめ、21世紀に向けより発展させるために専門部一体となり問題解決に取り組む所存です。

大会の様子として

今大会の試合内容を振り返ると、地元チームが上位に多数勝ち残り男子は不来方高・女子は盛岡二高の二校が目標のベスト８に残り、特に盛岡二と四天王寺の試合は残り数秒で１点差で地元の熱烈な応援にもかかわらず敗退し、惜しくもベスト４入りを逃がしたものの近年にない地元の活躍が目立った大会ではなかったかと思います。これも地元一体となっての日頃より強化練習をされた賜物で、大会を盛り上げる要素となって活気あふれた大会となった。

結果としては、男子は春の選抜大会優勝校であった興南高校が準決勝で伊奈高校に敗れ、一方国際情報と此花学園は延長戦となり僅差で国際情報が敗れた。決勝戦は此花学園のリードで始まり、徐々に伊奈が詰める展開で試合が流れていたが、後半中盤より伊奈高校が的確なシュートで得点を重ね初優勝を遂げた。

女子は、選抜大会の覇者福井商業が谷口選手を中心に順

当な勝利で決勝に駒を進めてきたが、一方桜華学園は僅差の戦いで勝ち上がってきて、決勝は選抜大会同様両校の戦いとなった。福井商業の長身谷口選手を如何に防御するかが勝利の鍵で、前半は良く守ったものの中盤より得点を許し残念ながら、福井商業の春夏連続優勝で幕を閉じた大会でした。

運営面では、体育館開催も３年目を迎え選手の怪我も少なく、目立ったものとしては膝の打撲・軽い脳震とう等で済み、コート管理も補助員の皆様の献身的活躍でスムーズな運営で試合ができました。

本年の課題として

（１）選手登録や役員登録制について大会運営の在り方に各県協会の対応にバラツキがあり、参加チームに惑いが生じた。特に、役員登録制の理解の仕方に問題があった。高体連専門部より競技上の注意や諸連絡等をお知らせしたにもかかわらず熟読しないで大会に臨むなど、部分的にトラブルが発生したことを反省し、今後専門部と参加学校に理解を得たいと考えています。

（２）初の30分ハーフ制での大会でしたが、異常気象のため、体育館内の温度が連日34度以上の日々が続き、空調設備もない中でボールが汗に濡れたためボールコントロールができないプレーもあったようです。選手は懸命に最高のプレーを披露しようと努力した精神力は素晴らしかった。

（３）今後はボールチェンジのタイミング等をオフィシャルと審判の連携を密にしてスムーズなチェンジの検討をする。

（４）やはり空調設備の問題が浮き彫りにされ、競技運営としては暑さ対策に一考すべきではないか。

（５）地元補助員の活躍としては、例年になく猛暑で館内では体感温度に匹敵する気温の中で地元役員の方々や、補助員となって協力して頂き、高校生諸君には熱い戦いとスピード溢れたハンドボール競技に魅せられながら記録席で間違わないようにと一心不乱となって記録する姿、炎天下に駐車係で活躍する姿など、一人一役として随所で支え、共に選手と一体となって大会を盛り上げるなど頭の下がる思いでした。

（６）日本協会と連携して、高等学校の申し合わせ事項や登録制・役員制等について明確にしたい。

終わりに

盛岡市実行委員会や諸機関・諸団体の方々をはじめ県ハンドボール協会によって準備段階から大会期間中絶大なるご協力を頂き無事終了することができました。深く敬意を表します。

特に、今回は専門部創部50周年記念式典が加わり、多数の諸先輩を迎え盛大に挙行できたことに感謝申し上げる■

大会を振り返って

岩手県高体連ハンドボール専門委員長　**小笠原忠芳**

平成11年度全国高等学校総合体育大会・高松宮賜杯全日本高等学校ハンドボール選手権大会が「飛びたとう　岩手の空に　夢はせて」のスローガンのもと、８月１日の鮮烈な印象の残る感動的な開会式を皮切りに、７日間、全国から96チーム・1344名の選手が参加し、盛岡市アイスアリーナをメイン会場として開催されました。そして、閉会式・あとかたづけの後、委員長の高らかな感動的な胴上げによって無事終了いたしました。

岩手県では、昭和45年の岩手国体以来、大きなイベントを開催しておらず、ほとんどの役員が全国大会は初めてという、みんなが不安を抱えながらのスタートでした。しかも、役員・補助員等約1200名の大人数であり、お互いが大会当日に初めて顔を合わせるというケースもあるなかで、各係の主任が中心となって精力的に働き、まとめあげました。その努力が実り、大会では役員・補助員が一体となり、秘められた岩手パワーが全開し、大成功へとつながったわけであります。終わった安堵感にひたりながら、岩手の組織力と更なる飛躍を、改めて大きく感じとることのできる大会だったと思います。

『地元インターハイで優勝旗を』実現はできなかったものの、大きな財産が残りました。全く無の中から、熱意のあるハンドボーラーによる少年団指導、そして中学校・高等学校と一貫した指導体制が確立されました。しかも、一般を含め、それぞれが高いレベルを保持し、今大会は快調に進み男女各２校すべてが３回戦に進出し、しかも、県勢初の快挙である３校が８強入りを果たしました。'99岩手総体は頂点ではなく一つの通過点とし今回の成果を基に、継続して強化と優れた人材の育成を図っていく必要があると思います。

終わりに、本大会を開催するにあたり、ご援助をいただきました関係団体並びに関係各位に感謝申し上げ、さらに、次年度の岐阜大会の成功をお祈りしたいと思います。

試合結果

【男子】

《準決勝》

此花学院　31　（12—12／13—13（延長）／6—5）　30　大分国際情報

［戦評］前半は此花５番小西、国際情報９番宮崎のロングシュートを皮切りに試合が開始された。此花は２番猪妻、11番池永のロングで着実に加点していった。一方国際情報は、１番山下のファインセーブを中心に守り、攻めの要９番宮崎にボールを集め得点を一歩も譲らない展開で12対12で終了した。後半に入っても緊迫したゲーム展開が続き、25分を過ぎても同点であった。此花は26分過ぎに勝負所と見て国際宮崎にマンツーマンディフェンスをしき終了間際此花６番佐々木のシュートで同点に追いつき延長に持ち込んだ。延長開始早々、此花はフォメーションからの連続得点でリードを奪い、粘る大分国際を１点差で振り切った。（佐藤嘉宏）

伊　　奈 29 (14—15 / 15—12) 27 興　　南

［戦評］開始23秒、7番地引のサイドシュートで先制した伊奈高はその後もスピード豊かな速攻などでリードする。対する興南高は10分過ぎからエンジンがかかり、15分には10番仲原の速攻で同点。20分には7番新垣の速攻で逆転に成功し、前半を1点リードで折り返した。後半も興南はフットワークの良いディフェンスから速攻などで攻めたて16分過ぎには3点差と引き離した。しかし、ここから足が止まりだし、逆に伊奈は10番中山の3連続得点などで24分過ぎには2点差をつけ、そのまま逃げきり死闘を制した。（岩角聖孝）

《決勝》

伊　　奈 29 (13—14 / 16—9) 23 此花学院

［戦評］鍛え上げられた身体でパワフルなプレーを身上とする関東の覇者伊奈と洗練されたコンビネーションプレーを得意とする関西の雄此花学院の対決。立ち上がり此花がクロスプレーを中心に伊奈ディフェンスを揺さぶり優位に試合を進めた。対する伊奈はやや固さが見られ、なかなかペースをつかめなかったが10分過ぎから本来の動きを取り戻し、前半は14対13と互角の展開で折り返した。後半に入り、伊奈は3連取で一気に逆転し、粘る此花を堅守からの速攻で突き放して29対23でうれしい初優勝を決めた。（阿部圭次）

【女子】

《準決勝》

桜花学園 18 (9—7 / 9—7) 14 四天王寺

［戦評］前日劇的な逆転勝利を決めて勢いに乗る四天王寺は立ち上がり3連続得点をあげ、好調なスタートを切る。一方、桜花は10分過ぎ5番渡辺のロングシュートを皮切りに7連取で逆転。四天王寺も相手ミスから速攻で得点し粘りを見せ、2点桜花リードで前半を終える。後半に入っても両者譲らず互角の戦いを続ける。四天王寺はサイド攻撃などで2点差に詰め寄るも要所で桜花ＧＫの好守に阻まれ、桜花が決勝戦に駒を進めた。（田村　淳）

福井商業 24 (12—9 / 12—10) 19 小松市立

［戦評］前半、先手を取ったのは福井商業。対する小松市立も4番新田のフェイントによるカットインなどで4連取しリズムにのるかに見えたが、福井商業は長身ポスト5番谷口にボールを集め着実に得点を重ね12対9でリードして前半を終えた。後半、福井谷口の退場をきっかけに小松は2番江端から繰り出される多彩なパスから3番山住のカットイン、9番本村のポストシュートにより一時は同点に追いついた。しかし、福井は3番太田と谷口のコンビを中心にして冷静に加点し、常にゲームを支配し続けた。小松は勝負所で福井ＧＫ上田の好守により得点できなかったのが痛かった。（佐藤嘉宏）

《決勝》

福井商業 18 (11—5 / 7—7) 12 桜花学園

［戦評］春の選抜大会決勝と同じ顔合わせとなったが、春の覇者福井商業が前半立ち上がりから3番太田智子、4番冨田貴子のスピードに乗ったフェイントからのカットインシュートで桜花学園のディフェンスを破り試合をリード。対する桜花学園も6番長野かづさの巧みなパスワークからコートを広く使った展開で攻めるが、長身谷口尚代を中心とした高い福井商業ディフェンスを攻めあぐみ前半を終了した。後半に入り桜花学園は3番岡田奈穂の頑張りで追い上げを見せるがスピードに乗った福井商業の攻めを守り切れずにリードを許し、要所を抑えた福井商業が春に続き2冠を達成した。（齋藤　崇）

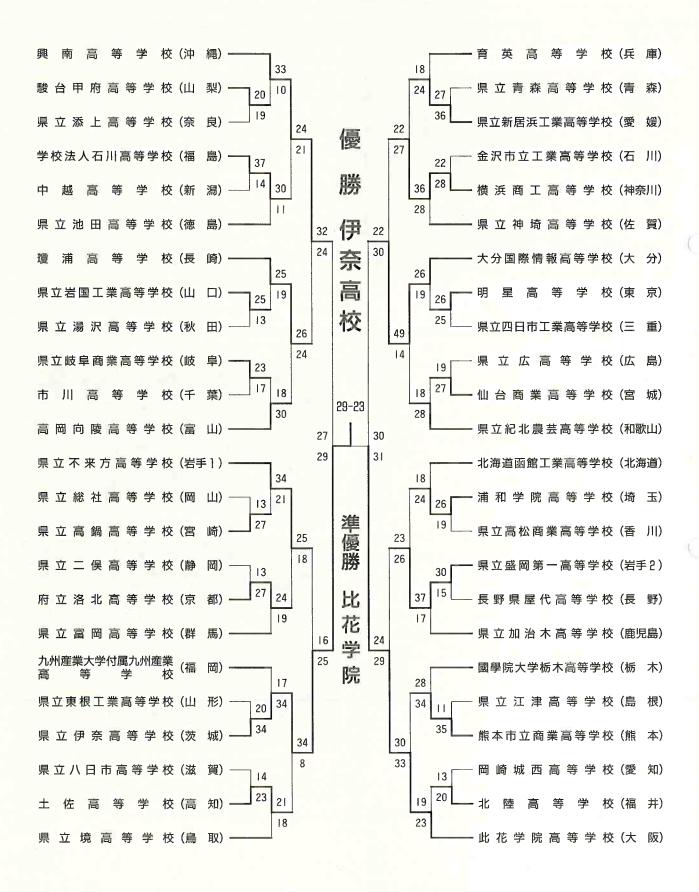
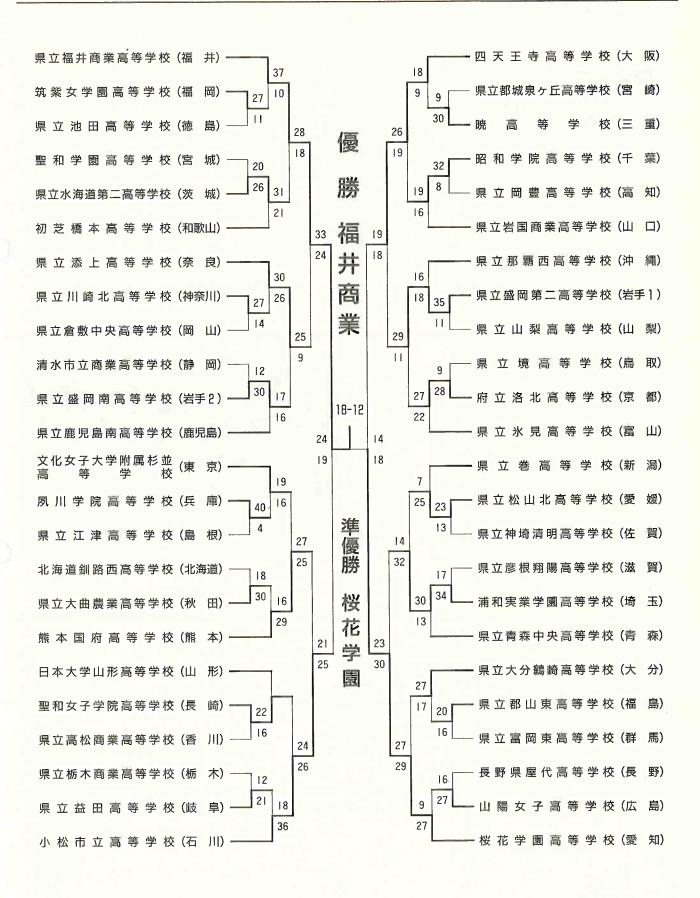
平成11年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第50回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子試合結果

平成11年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第50回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子試合結果

第28回 全国中学校ハンドボール大会（長野）

——大阪が男女共に優勝——

男子市岡東は２年連続２回目、女子大浜は初優勝

信濃路で　燃えて輝け　きらめく力
——第28回全国中学校ハンドボール大会を終えて——

大会実行委員会事務局長　清水健太郎

1　はじめに

平成11年度全国中学校体育大会・第28回全国中学校ハンドボール大会が「信濃路で　燃えて輝け　きらめく力」のスローガンのもと、８月22日から25日までの４日間、全国９ブロックの代表40チームが参加して、長野冬季オリンピックの会場でもありました長野市真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）で開催されました。

長野県で今大会を開催するのは初めてのことで、県内では男女あわせても16チームと少なく、また指導者も全体的に若い長野県中学校体育連盟ハンドボール専門部としては、準備段階から運営面等で多くの不安材料を抱えてのスタートでもありました。

しかし、(財)日本中学校体育連盟、(財)日本ハンドボール協会、長野県教育委員会及び長野市教育委員会、長野県中学校体育連盟、長野県ハンドボール協会、さらには多くの関係機関及び団体各位の多大なるご支援、ご協力により無事開催までこぎつけることができました。

2　大会全般を通して

大会は１回戦から好ゲームが展開され、中学生とは思えぬほどスピードのある身のこなし・パワーあふれるロングシュート・見事なコンビネーション等、観衆の胸の内を熱くさせるプレーが随所に繰り広げられ、興奮のうちに大会を終了することができました。

その中で、見事に連覇の快挙を成し遂げた男子優勝の大阪市立市岡東中学校・大型選手を揃え確実に勝利をものにした女子優勝の堺市立大浜中学校の皆さん、本当におめでとうございました。心よりお祝を申し上げます。幾度となく苦しい場面でも、互いに励まし合って、自分たちのハンドボールを貫いた逞しい精神力に心より敬意を表したいと思います。

なお、今大会の優秀選手に選出された選手は次の通りです。

〈男子〉

高橋　昭仁（GK：大阪市立市岡東中学校）
岡　　翔（CP：大阪市立市岡東中学校）
藤原　直人（CP：大阪市立市岡東中学校）
中野　達也（CP：氷見市立西條中学校）
海道　衛秀（CP：氷見市立西條中学校）
水野　裕紀（CP：塩山市立塩山中学校）
西村　啓太（CP：名古屋市立高杉中学校）

〈女子〉

高田　由貴（GK：堺市立大浜中学校）
植垣　暁恵（CP：堺市立大浜中学校）
柏原　華奈（CP：堺市立大浜中学校）
田原由加里（CP：大分市立明野中学校）
毛下　早紀（CP：大分市立明野中学校）
樋口　真央（CP：明石市立大蔵中学校）
北村さやか（CP：水海道市立水海道中学校）

3　おわりに

本大会は、会場に来られた選手・役員・応援にこられた保護者の方々を含めたすべての人たちで作り上げた大会でもありました。会場内は常に整然とされ、ゴミが散在することなく、誠に気持ちよく運営に当たることができました。

すばらしい思い出を残してくれた選手のみなさん、大会関係者の皆さんに心より感謝するとともに、来年度の沖縄大会の成功を祈念して大会開催の御礼とさせていただきます。

最後に、永年(財)日本中学校体育連盟ハンドボール競技部長を務めてこられました真田　元先生［(財)日本ハンドボール協会参事］が大会直前の８月17日に急逝されました。大会直前の８月11日には、組み合わせ抽選会議のために来県され、会場視察も含めて大会へ向けての最終確認をされたばかりでありました。大会が無事終了できましたことをご報告いたすとともに、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

試合結果

【男子】

《1回戦》

日　吉（長崎）３０－２０ 滝ノ水（愛知）
大垣東（岐阜）２１－１７ 横　尾（兵庫）
三　松（宮崎）２４－２２ 総社西（岡山）
安　堵（奈良）２４－２２ 通　津（山口）

《2回戦》

市岡東（大阪）２６－１９ 三　松（宮崎）
高　杉（愛知）２６－２０ 安　堵（奈良）
西　條（富山）１８－１５ 大垣東（岐阜）
塩　山（山梨）３６－３３ 日　吉（長崎）
屋　代（長野）３０－２９ 宇賀の浦（北海道）
市川第一（千葉）２４－１５ 横　浜（高知）
氷見北部（富山）２２－２１ 城　西（岩手）
神　森（沖縄）２９－２７ 水海道西（茨城）

《準々決勝》

塩　山 ２６－１９ 屋　代
市岡東 ２３－２２ 氷見北部
高　杉 ２９－１８ 神　森
西　條 ２３－２０ 市川第一

《準決勝》

市岡東 ３１（１３－１２ / １０－１１ / ４－ ２ / ４－ ０）２５ 塩　山

［戦評］前半10分までに、ロングシュート、ポストシュートなどで確実に得点をあげた市岡東がリードした。一方、塩山は堅い守りから得意の速攻で反撃をした。前半を終了して市岡東の1点リード。後半も出だしは市岡東がペースをつかみ、塩山が追撃する形となり点差を縮めていき、残り2秒で同点に持ち込み延長戦に突入する。延長直後から両チーム点の取り合いになるが、市岡東が6連続得点を決め、勝利を収めた。両チームとも最後の笛が鳴るまで全力でプレーし、好ゲームであった。

西　條 ３２（１３－ ９ / １９－ ８）１７ 高　杉

［戦評］先取点を決めた西條がスカイプレーで2点目をねらうが失敗。高杉は2番のロングシュートで得点を重ねる。西條は2番のフリースローからのロングシュートにあせり、ファウルを続け退場者が続出するも、キーパーの好守で高杉にリズムを与えず、速攻、ポストプレーで得点し、前半を4点差で終了。後半、落ち着いたプレーでパスをつなぎ、楽に試合を進めた西條が自分たちのリズムで決勝戦を迎える。高杉は2番に頼り過ぎ、単調な攻めが続いてしまった。西條4番の粘り強いポストプレーとキーパーの好守が光った。

《決勝》

市岡東 ２０（ ９－ ６ / １１－１１）１７ 西　條

［戦評］先取点の西條だが以後加点できず、逆に市岡東に4連取されてしまう。高さを生かした市岡東のディフェンスに苦戦の西條だが一歩一歩得点を重ねた。市岡東も落ち着いたセットプレーなどで、失点しても取り返すといった攻防を繰り広げた。市岡東10番の取り返しが特に後半につながる追加点となった。後半、西條が2連取し1点差に詰め寄るが、市岡東の取り返しなど一進一退を繰り返す。市岡東の全員攻撃など、西條の退場で市岡東はペースを握り、試合終了となる。お互い攻守とも良く戦った試合であった。

【女子】

《1回戦》

宮　（愛知）１７－１４ 堀　川（富山）
小　島（長崎）３０－１１ 真　備（岡山）
大　蔵（兵庫）３３－１３ 吉川中央（埼玉）
明　野（大分）３０－ ９ 大　増（埼玉）

《2回戦》

大　蔵（兵庫）１６－１２ 日　枝（岐阜）
明　野（大分）２３－ ９ 紫　雲（香川）
石　川（福島）２０－１５ 小　島（長崎）
住　吉（山口）２０－１５ 宮　（愛知）
大　浜（大阪）２４－１９ 原　川（大分）
水海道（茨城）１１－１０ 西朝明（三重）
茅野東部（長野）２２－ ９ 東月寒（北海道）
十　三（富山）２４－１５ 横　浜（高知）

《準々決勝》

大　浜 ２３－１１ 住　吉
大　蔵 ２７－１６ 茅野東部
明　野 ２７－２３ 十　三
水海道 ２４－１６ 石　川

《準決勝》

大　浜 ２５（１３－ ６ / １２－１１）１７ 大　蔵

［戦評］前半5分までは両チームとも好守の切り替えが早く、得点することができなかった。しかし、10分過ぎから大浜の堅い

守りに苦しむ大蔵に対し体格を生かしたロングシュートで確実に得点していった大浜が13－6とリードして前半を終了。後半、大蔵も必死に攻めるが大浜の堅いディフェンスを崩すことができなかった。逆に大浜はロング、ポストから確実に追加点をあげ、勝利をつかんだ。

明　野 ２９（１６－１１ / １３－１０）２１ 水海道

［戦評］立ち上がり両チームとも好ディフェンス、キーパーの好セーブなどで一進一退であったが、中盤から明野は水海道のミスから速攻、カットインなどで得点、前半は明野のペースで終了。後半も明野ペースで試合が進み、明野はサイド、ペナルティーなどを確実に得点していった。水海道も残り7分からマンツーマンディフェンスで勝負したが、逆に明野の速攻にあい勝負が決まった。

《決勝》

大　浜 ２３（ ８－ ７ / １５－ ７）１４ 明　野

［戦評］前半は両チームともディフェンスが良く、相手の攻撃を考えてか大浜は一線、明野は1－2－3ディフェンスで的確に止めている。また両キーパーの好セーブが目にとまる。前半最後に明野の選手が失格となり、後半にどう影響が出るかが「カギ」となった。後半、大浜はキーパーのナイスセーブからの速攻、カットインが決まり出し、得点差が徐々に大きくなり、そのまま終了となる。決勝戦らしい白熱したゲームであった。

＊この大会への出場権はブロック予選によって与えられます。ブロック予選には各県から1チームと開催地から1チームが参加できます。このため本大会へ同一県から2チームが場している場合があります。

改めて基本の大切さ痛感

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

「田口ジャパン」がいよいよ国際デビューを果たした。2000年のシドニー・オリンピックを控えてのプレイベント「サザンクロス（南十字星）国際ハンドボールチャレンジ」だ。この時点では締め切りの関係で結果は分からないが、ジャパンカップや北海道での合宿などの成果を十分に発揮し、2000年の本番への期待を膨らませてくれるものと信じている。

ところで、日本開催は３度目となった日・韓・中ジュニア交流競技会（広島市東区スポーツセンター）を観戦する機会に恵まれた。男女とも日本はインターハイ準優勝チームが出場、地元・広島からは選抜チームが戦いをいどんだ。

中国は男女ともまだ“発展途上”の域をでない感じで、時にはルールさえはっきり把握していない状況が顔をのぞかせた。その中で目を引いたのが韓国の強さだ。それぞれが単独チームを送り込んできたが、他の３チームを全く相手にしない勝負を披露した。

大会前から「どのようなプレーをするのかな」の期待と注目を集めていたが、その期待にたがわぬ戦い、プレーを随所にのぞかせてくれたのは「さすが韓国」と、改めて感心もさせられた。

韓国といえば、特に女子は世界選手権、オリンピックなど世界のトップレベルに位置しているが、その土台づくりを見せつけられた感じがした。基本に忠実なプレーは、やはり系統立てての強化の何よりのたまものであると思う。

ジュニアレベルチームということで、時にはそれらしいプレーが垣間見られたことは致し方ないが、そうしたなかにキラリと光る高度なプレーが“ここ一番”という場面できっちりと披露されたのは、アジアの中での世界に通じる強国として、うらやましくもあった。

このことからしても、韓国でのハンドボールの関心度を改めて認識させられたと同時に、幼少時から基本を徹底的にたたきこんで身につけさせていることを見せつけられた感じがした。日本も「打倒韓国」を果たすためには、こういった基本技のこれまで以上の習得につとめなければなるまいし、よく叫ばれているジュニア、ユース、シニアの系統だった一貫強化策をいっそう押し進める必要があるのではないだろうか。

熊本の世界男子選手権で世界の壁の厚さは身を持って分かったはずだ。土台が揺らいでは、レベルアップはスピードが鈍ってしまうのは明らかだ。今回の日・韓・中ジュニア交流競技会を観戦して、改めて基本の大切さとしっかりした方針を立てての強化の必要性を痛感した。

ANA CARD

ANAカードなら、旅の応援機能満載。マイレージの楽しさも大きく広がります。

空港でも余裕のチェックイン

出張先でのショッピングもバックアップ

旅の安心。保険もサポート

ホテルのご利用もおトク倍増

航空券ご予約が、スムーズアップ

ショッピングでマイルを貯めるならやっぱりANAカード!

お買物やお食事でもカードでしっかり貯めやすい

クレジット会社のポイントを100円=1マイルで貯められます。

一度で2倍貯まる「ショッピングアルファ」も充実

下記のお支払い内容なら、100円=1マイルを自動的に加算。クレジット会社のポイントによるマイルと合わせて、100円=2マイルになるうれしいサービスです。

■対象商品・店舗

●国内全日空各支店、空港カウンターでの航空券のお求め、および機内販売 ●高島屋 ●日本石油SS ●出光SS

ANA ANK エアーニッポン   出光

さらにボーナスマイルで貯めやすさがアップ!

飛ぶたびに基本マイレージの15%(ワイドカードの場合。一般カードは5%)のボーナスマイル。また、毎年初めてのご搭乗時に3,000マイル(ワイドカードの場合。一般カードは1,000マイル)のボーナスマイルでおトクに貯まります。

今なら、一般カード初年度年会費無料サービス中です

今日からマイルが貯められるインスタントカード付き

お問い合わせ、入会申込書のご請求は、フリーダイヤル 0120-029-707まで
[受付時間] 9:30～17:00(土・日・祝・年末年始を除く)
全日空各支店、空港カウンターにもございます。

第12回全国小学生ハンドボール大会

男子・当山小学校、女子・高田ハンドボールスポ少が優勝

第12回全国小学生ハンドボール大会総評

普及アドバイザー　小西博喜

夏休みの小学生イベント・ハンドボールも12回大会を重ね、参加チームの数が普及を占うバロメーターになってきた。とりわけ、開催地としては、全国地域の子ども達の出会い、ふれ合いの交流を求め、ハンドボールに寄せる期待に情熱を注いでいる。現在、全国ブロック大会が各地でそれぞれ開催されるに至った（大西委員長談）ことを知り、来年度へ夢をつなぐ全国チェーンができたのは嬉しい。さらには、国際化の交流を求める声もあり、アジアに向けて活性化の糸口として指導者と共に興味を引く課題でもある。大西委員長を中心に明日へのジュニアの発展に結びつけたいものである。

男子決勝は、沖縄県当山小学校対長崎クラブジュニアの九州勢同士。当山小は中学生並みの大型選手棚原を切り札として勝ち進んだ。フリースローからの豪快なジャンプシュートは定評があり、フェイント動作も見事である。対する長崎クラブは小柄ではあるが、オールラウンドの多彩な攻めが特徴であり、思いきったパスワークも功を奏した。しかし、沖縄は相原を中心とした動きをうまく生かして超小学生のスピードで着実に得点を重ねた。まず順当の勝利といえよう。

女子決勝は、大分県高田スポーツ少年団対沖縄県神森ハンドボールクラブの対戦となり、男子同様九州同士の顔合わせ。大分高田は、守りのカナメであるGK岡の再三にわたる見事な守備で神森のシュートを阻止。大きく優勝に貢献した美技は賞されてよい。試合は終始一進一退の展開で第2延長でも決まらず、サドンデスに持ち込まれたが、高田GK岡の堅実な守備が神森のプレッシャーとなり、僅差で高田スポーツ少年団に凱歌が挙がった。敗れた神森ハンドボールクラブも見応えのある展開で熱戦を演じた。両者、全く甲乙つけがたい内容で、よく洗練された両チームの健闘を称えたい。

本年も男女共に九州勢の決勝戦となり、九州ブロックのレベルの高さと指導者、保護者の選手育成の熱意にはあらためて敬意を表する次第である。

【男子の部】

■予選リーグ

［Aブロック］
①延岡東ハンドボールクラブ（宮崎）
②スポーツ少年団守谷クラブ（茨城）
③オリーブくん&上西小（香川）

［Bブロック］
①京田辺市選抜（京都）
②塩山ハンド（山梨）
③愛知県ハンドボールスクール

［Cブロック］
①玉名町小学校ハンドボール部（熊本）
②大浜キッズ（大阪）
③LITTLEGUTS　（山口）

［Dブロック］
①当山小学校（沖縄）
②真弓クラブ（奈良）
③埴生小学校ハンドボール班（長野）

［Eブロック］
①笹川ハンドボール少年団（三重）
②安居ブルーサンダーハンドボール（福井）
③神戸ラスカルズ（兵庫）

［Fブロック］
①長崎クラブジュニア（長崎）
②田辺東小学校（京都）
③総社クラブジュニア（岡山）

［Gブロック］
①甲田ハンドボール部（広島）
②横瀬ハンドボールクラブ（大分）
③富岡イーグルス（群馬）

［Hブロック］
①高盛ハンドボールクラブ（北海道）
②宮田スポーツ少年団（富山）
③SEVEN STARS鶴巻H.C（東京）

■決勝トーナメント1回戦

京田辺市選抜	11－7	延岡東ハンドボールクラブ
当山小学校	19－6	玉名町小ハンドボール部
長崎クラブジュニア	10－7	笹川ハンドボール少年団
高盛ハンドボールクラブ	19－15	甲田ハンドボール部

■準決勝

当山小学校	21－10	京田辺市選抜
長崎クラブジュニア	13－12	高盛ハンドボールクラブ

■3位決定戦

京田辺市選抜	14－12	高盛ハンドボールクラブ

■決勝戦

当山小学校	20－14	長崎クラブジュニア

【女子の部】

■予選リーグ

［aブロック］
①高田ハンドボールスポ少　（大分）
②京田辺市選抜（京都）
③LITTLE GUTS（山口）
④芦別H.C（北海道）

［bブロック］
①甲田ハンドボール部（広島）
②宇土花園小学校（熊本）
③大浜キッズ（大阪）

［cブロック］
②笹川ハンドボール少年団（三重）

①桃園小学校ハンドボールチーム（京都）
③埴生小学校ハンドボール班（長野）

［dブロック］
①仏生寺スポーツ少年団（富山）
②真弓クラブ（奈良）
③上西小&オリーブちゃん（香川）

［eブロック］
①神森ハンドボールクラブ（沖縄）
②愛知県ハンドボールスクール（愛知）
③岡山オールスターズジュニア（岡山）

［fブロック］
①延岡東ハンドボールクラブ（宮崎）
②安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井）
③富岡ラビッツ（群馬）
④明石ジュニア（兵庫）

■決勝トーナメント１回戦

高田ハンドスポ少	27－7	安居ブルーサンダースポ少
桃園小ハンドチーム	21－4	甲田ハンドボール部
神森ハンドクラブ	10－5	仏生寺スポーツ少年団
延岡東ハンドクラブ	14－11	京田辺市選抜

■準決勝

高田ハンドスポ少	21－18	桃園小ハンドチーム
神森ハンドクラブ	14－7	延岡東ハンドクラブ

■３位決定戦

桃園小ハンドチーム	14－11	延岡東ハンドクラブ

■決勝戦

高田ハンドスポ少	18－17	神森ハンドクラブ

チェリーカップ
第７回東日本小学生ハンドボール大会

【男子の部】

■予選リーグ

［Aブロック］
①上庄スポーツ少年団（富山）
②神町ハンドスポーツ少年団（山形）
③本宮ハンドスポーツ少年団（福島）

［Bブロック］
①窪スポーツ少年団（富山）
②湯沢市ハンドスポーツ少年団（秋田）
③尾花沢ハンドスポーツ少年団（山形）

［Cブック］
①東根ハンドスポーツ少年団（山形）
②堀川スポーツ少年団（富山）
③湯沢クラブジュニア（秋田）

■決勝リーグ

上庄スポーツ少年団	12－6	窪スポーツ少年団
窪スポーツ少年団	15－14	東根ハンドスポ少
東根ハンドスポ少	14－11	上庄スポーツ少年団

■順位決定リーグ

湯沢市ハンドスポ少	17－10	神町ハンドスポ少
湯沢市ハンドスポ少	19－11	堀川スポーツ少年団
堀川スポーツ少年団	13－12	神町ハンドスポ少

［順位］
①東根ハンドスポーツ少年団（山形）
②上庄スポーツ少年団（富山）
③窪スポーツ少年団（富山）
④湯沢市ハンドボールスポーツ少年団（秋田）
⑤堀川スポーツ少年団（富山）
⑥神町ハンドスポーツ少年団（山形）

【女子の部】

■１回戦

堀川スポーツ少年団（山形）	17－4	玉野スキースポーツ少年団（富山）
窪スポーツ少年団（富山）	7－5	尾花沢ハンドスポーツ少年団（山形）
玉野小学校（山形）	10－7	東根ハンドスポーツ少年団（山形）

■準決勝

堀川スポーツ少年団	18－4	窪スポーツ少年団
上庄スポーツ少年団(富山)	24－5	玉野小学校

■３・４位決定戦

玉野スキースポ少	11－3	尾花沢ハンドスポ少
窪スポーツ少年団	11－3	東根ハンドスポ少
玉野スキースポ少	15－7	玉野小学校
窪スポーツ少年団	7－5	玉野スキースポ少

■決勝戦

上庄スポーツ少年団	18－7	堀川スポーツ少年団

［順位］
①上庄スポーツ少年団（富山）
②堀川スポーツ少年団（富山）
③窪スポーツ少年団（富山）
④玉野スキースポーツ少年団（山形）

中学校・高等学校生徒のスポーツ活動の現状と課題 その2

――スポーツに関する意識・実態調査の研究報告書（県立体育センター）より――

神奈川県ハンドボール協会理事長　川邊孝夫（文責：同理事　石川泰弘）

③ 運動部活動の問題点

（1）生徒の活動上の悩み

図３－１は、運動部員に「運動部での活動を通して悩んでいることは何ですか」の結果である。

中学生は、「疲れがたまる」36.8%、「休日が少なすぎる」32.9%、「遊んだり勉強する時間がない」27.2%であった。

高校生は、「休日が少なすぎる」35.2%、「疲れがたまる」34.7%、「遊んだり勉強する時間がない」21.8%であった。

（2）理想的な活動時間と日数

中学生は、「５日で２～３時間未満」19.9%、「４日で２～３時間未満」12.2%であった。

高校生では、「５日で２～３時間未満」24.7%、「６日で２～３時間未満」15.2%であった。

④ 運動部活動の今後

（1）外部指導者の活用

中学校は、77.8%、高校では、95.0%が外部指導者を活用しており、人数別にみると中学校では「１人」が38.9%、高校では「５～７人以上」が多く、「７人以上」が55.0%で最も多かった。

図４－１は、教員･校長に対し、「外部指導者の活用は必要だと思うか」の結果である。

教員では、中学校が71.9%、高校では80.3%が「必要で

運動部員の悩み（３つまで）

	中学生	高校生
練習時間長い	15.1	12.1
休日少ない	32.9	35.2
遊び勉強の時間ない	27.2	28.7
練習が厳しい	4.3	2.8
合宿試合が多い	1.7	1.1
上達しない	22.2	21.8
練習時間短い	8.0	5.1
練習易しい	4.8	4.0
十分な指導がない	16.9	13.6
意見が反映されない	5.8	4.1
指導者意識加熱	6.1	5.5
生徒同志の人間関係	12.5	13.0
保護者熱中しすぎ	1.2	1.1
保護者無関心	1.4	1.4
疲れがたまる	36.8	34.7
指導者との人間関係	7.3	7.8
活動場所狭い	16.0	14.4
費用かかる	4.2	11.8
施設十分使えない	5.4	8.9
勉強と両立できない	14.5	21.5
他にやりたいことができない	17.0	16.5

文部省　運動部員の悩み（３つまで）

	中学生	高校生
特別の悩みはない	24.5	16.6
練習時間長い	13.1	9.8
休日少ない	27.2	28.7
遊び勉強の時間ない	25.4	32.1
練習が厳しい	4.9	3.3

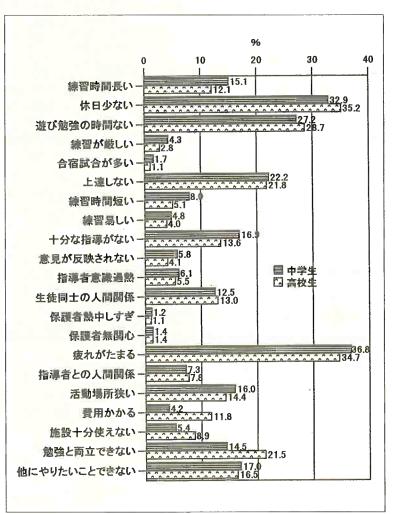



図３－１

外部指導者は必要か

	必　要	どちらとも言えない	必要ない
中学校長	94.7%	5.3%	0.0%
中学教員	71.9%	26.7%	1.3%
高等学校長	91.7%	4.2%	4.2%
高校教員	80.3%	17.9%	1.8%

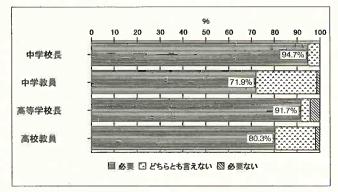



図4－1

外部の指導者の指導

	とてもよいと思う	よいと思う	どちらでもない	あまりよくないと思う	よくないと思う
中学生	21.2%	30.3%	29.2%	10.7%	8.6%
高校生	28.1%	38.1%	23.8%	5.8%	4.4%
中学校保護者	13.5%	50.3%	26.0%	7.8%	2.5%
高校保護者	11.9%	50.3%	27.3%	7.8%	2.7%

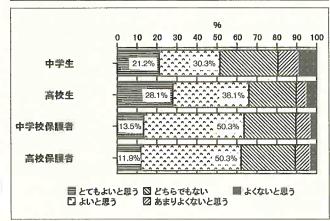



図4－2

ある」と回答した。校長では、90%以上が「必要である」と回答した。

図4－2は、生徒・保護者に対し、「学校以外の指導者が運動部活動で指導することをどう思うか」の結果である。

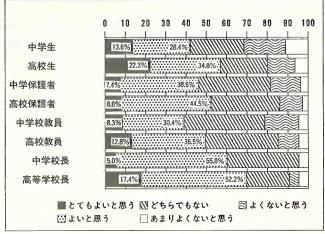



図4－3　合同運動部での活動

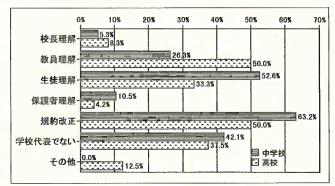



図4－4

「よいと思う」「とてもよいと思う」では、中学生51.5%、高校生66.2%、中学保護者63.8%、高校保護者62.2%であった。

（2）合同運動部

図4－3は、生徒・保護者・教員・校長に対し、「部員不足により他の学校の生徒と合同の運動部をつくり一緒に練習したり試合に参加することをどう思うか」の結果である。

「よいと思う」「とてもよいと思う」は、中学生42.0%、高校生57.1%、中学保護者46.0%、高校保護者52.5%、中学教員38.7%、高校教員49.3%、中学校長60.0%、高校校長69.6%であった。

図4－4は、校長に「どのような問題点が予想されるか」の結果である。

中学校は、「生徒間の共通理解」52.6%、「規約改正」63.2%、高校は、「教員間の共通理解」50.0%、「規約改正」50.0%であった。

⑤ まとめ

運動部活動は、学校教育活動の一環として、心身の健全な発達に多大な貢献を果たしてきた。

第一に体力・運動能力の向上、健康の保持増進、安全衛生等の知識・理解、さらには学級や学年の枠を越えた共同活動は、人間関係の育成の機会となった。

第二に生徒の相互理解や教職員との人間関係を深め、学校の活性化等にも生かされてきた。

第三に運動部活動が日本の競技スポーツの発展に果たして来た役割は極めて大きく、日本の競技スポーツの基盤を支えてきたのである。

しかし、近年の情報化、高度化、多様化・個性化、週休２日制の普及による余暇時間の増大等により、生活様式や価値観が変化する中、運動部活動においても各機関で論議や調査研究が行われ、その実態が明らかとなり適切な指導と望ましい活動の在り方が求められている。

特に本報告書の中でも紹介したように、生徒の入部状況は多様であり、チャンピオンシップを目指す者、楽しみや健康志向の者、入部動機や目的意識まで様々である。

過熱した活動、体力・技術の限界、学業成績の低下、人間関係上のトラブル、アルバイト等を理由としてドロップアウトする生徒や志向の変化、新しい友人や仲間との出会い、新しい価値観の芽生え等で、他の運動部や文化部へ転部する生徒。さらには「燃え尽き症候群」や「帰宅部」現象等は、中学校・高校の入部率の低下を招き、生徒数の減少は部員数の減少に拍車をかけている。また、専門的指導者の有無は、部間格差を生み、この格差は生徒間の不平等感や差別感をもたらし、生徒個々の意欲にも微妙に影響を及ぼしている。栄光や充実感、達成感を味わう部活動が逆にストレス蓄積の場となっている実態がある。

部活動運営の中心としてかかわってきた教職員については、教職員数の減少、高齢化等によって顧問不足が深刻化している。それでも部活動に教育的意義を見いだしている指導者は、生徒の指導に力を注いでおり、超過勤務は日常的となり、疲労度も高く、家庭生活への影響も大きい。

このような背景の中で、ハンドボール競技も例外なくその渦中に存在するスポーツである。その中で、大きな変革のキッカケとなる動きがある。小学校の新学習指導要領において、ハンドボール競技を指導可能種目として授業の中で取り扱うことができるようになったことである。これをハンドボールの普及（底辺の拡大）につなげる契機と捉える視点は欠かせないが、それにも増して授業教材として認められたということは、ハンドボールの持つ多様（マルチ）な特性の享受が多くの子供達にとって可能になったということを忘れてはならない。

今回の改訂を機に我々の果たす役割は極めて大きく、克服すべき課題も決して少ないとは言えない。。

課題解決のためまず第一歩は、多くの子供達やその子供達を取り巻く保護者・教職員・指導者等にハンドボールの魅力（有効性や発展性）を知らせることである。スポーツの本来もっている「健全なる心身の発展を目指す」を指導方法や指導内容の核に据えなければならないことは言うまでもないが、それは取りも直さず、ハンドボールの技術構造を分析し、発達段階に応じた取り扱い方の工夫を意味すると考える。

21世紀に激変が予測されるスポーツ界において、ハンドボール競技を普及・発展させスポーツ文化として定着させるためには、各協会をはじめ多くの指導者が過去を振り返り、部員不足・顧問不足の実態、休廃部問題、合同運動部等の諸課題を認識し実態を把握するとともに、その改善・改革に努めることが必要である。併せて競技ハンドボールのみならず、競技力向上の目的以外（教科や生涯体育）の分野においてのハンドボールの有効性（協調性、創造性、人間性の育成）について理論構築し、その目的や目標、発達年齢、男女差や能力差に応じた具体的な指導方法や指導内容を確立することが重要であると考える。

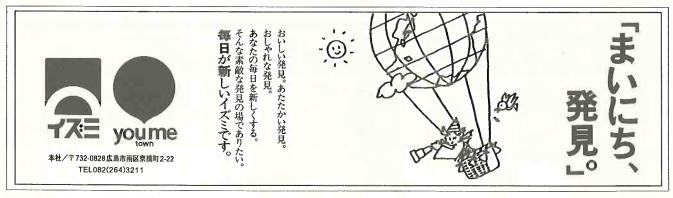
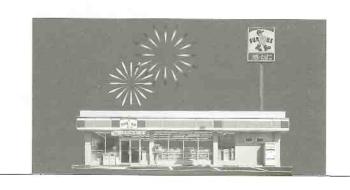
より多くの子供達が、学校や地域社会の中でハンドボールの素晴らしさを体験することによって、生涯にわたってスポーツに親しむ心が育ち、さらには仲間とのコミュニケーションによって豊かな人間性を育むことができるはずである。

ハンドボールがスポーツ文化として真に市民生活に浸透するために、我々関係者一人ひとりが汗をかき、一体となって行動し続けることによって未来への道は開かれると確信する。

（引用・参考文献）

1）神奈川県体育センター指導研究部調査研究室（現スポーツ科学研究室）：《平成10年度学校体育に関する研究》「中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査」平成10年

2）神奈川県高等学校体育連盟調査研究委員会：「中学校運動部活指導者の意識調査」平成10年

3）神奈川県教育委員会：「運動部活動考」平成７年３月

簡易ハンドボール指導の実践報告

■学校体育ハンドボール検討委員会

当委員会では、小学校での簡易ハンドボール指導の実践事例を収集しています。今回は、第48回読売教育賞「体育の教育」部門で最優秀賞を獲得された西川潔先生より玉稿をいただきましたので、ここに紹介させていただきます。

（学校体育ハンドボール検討委員会　佐 藤　　靖）

子どもたちが生き生きと取り組むハンドボール学習の工夫

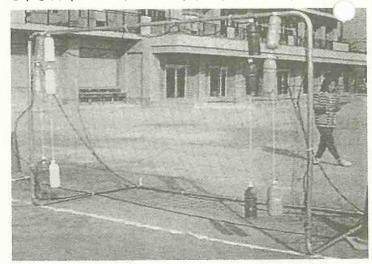
奈良県大和高田市立高田小学校教諭　西川　潔

1　子どもたちから見た「ハンドボールの楽しさ」（教材化における工夫）

現行の学習指導要領では、中学年の手で扱うゲームとしてポートボールが取り上げられている。ポートボールにもその運動がもついろいろな楽しさがあるが、子どもたちの実態に照らした場合、次のような課題があると考えた。一つは、台の上に立ってゴールマンとなるので、身長によってゴールの条件が違ってくる。二つ目に、シュートがパス的であり、バスケットボールでリングにシュートを入れるときのおもしろさやハンドボールのシュートのダイナミックさに比べおもしろさに欠けるということである。そのような理由から、本単元ではハンドボールを扱うことにした。ハンドボールの特性としては、ゴールを工夫したり、またゴールの幅があるので、いろいろなところをねらえたりしておもしろい。さらに、キーパーもいろいろな方向に動いて守ったり、全身を使ってシュートをとめたりできる。また、シュートもスピードがあって迫力があり、子どもの側から運動特性をとらえても、様々な楽しさが考えられる。

しかし、シュートのダイナミックさやスピードがあって迫力がある反面、固いドッジボールでは体に当たったら痛いという恐怖心がある。特に、今回ハンドボールを初めて学習する小学3年生にとってはそのことが顕著に表れると考えた。そこで、体に当たっても痛くない柔らかいゴムでできているボールを使用することにした。その結果、ボール操作が苦手な児童も含め全ての児童が、ボールが当たる恐怖心をもつことなく、生き生きとゲームや練習に取り組めた。

また、シュートした時に「パン！」と音が鳴ったらシュートが成功した時の喜びも増すだろうと考え、ゴールを工夫することにした。そこで、鈴を入れたペットボトルを3つ縦につなげたものを2組ずつゴールの左右にぶら下げた。（写真1）

両サイドにペットボトルをぶら下げた理由は、得点をかせぐために、ゴールキーパーが取りにくいサイドを狙ってシュートできる力をつけたいというねらいからである。その結果、シュートしたボールが両サイドのペットボトルに当たると「パン！」と心地よい音が鳴り響き、子どもたちが得点を入れた時の喜びも倍増した。また、ペットボトルにシュートしたボールが当たれば、当たらなかったときの2倍の4得点にしようというルールを子どもたちもつくり、意欲的にそこにシュートしようと工夫していた。

（写真1）鈴の入ったペットボトルをつけたゴール

2　子どもたちがつくった「私たちのハンドボールのルール」

本単元では、ハンドボールの既成のルールを子どもたちに示してゲームを行うのではなく、毎時の学習後「今日の学習で困ったこと」を出し合うことから子どもたちのゲームに関する願いを引き出したり、子どもたちの運動の実態と照らし合わせたりしながら自分たち独自の「ルール」を作成していった。そうすることにより、自分たちに最もふさわしいルールをつくったり、改善したりできた。そのルールが次頁の「ルールと約束」である。

3　「振り返り評価」と指導法・支援の一体化

毎時間の学習後、「今日の学習を振り返って」というテーマで簡単に作文を書かせた。そして、子どもたちの「振り返り評価」を指導者が見て「なるほどそうか」で終わるのではなく、「振り返り評価」を支える指導者の支援が必要だと考える。なぜならば、そのことによって指導者の支援がより子どもたちの学習に生きるものになるからである。

第３時の学習後、セザンヌチームの２人が次のような「振り返り評価」をしている。

Ｓ児

今日は、相手に勝ってうれしかったけれど、あまりボールにさわれなかったのが、おもしろくなかった。

Ｉ児

今日は、Ａさんにボールが一回しか回ってこなかった。これからは、ボールが回るようにしたいと思う。

学習カードに子どもたちが書いた「今日の学習を振り返って」（振り返り評価）は、必ず翌日に印刷して子どもたち全員に返し、みんなで読み合わせすることにしている。ところが、ボール運動が得意な子どもほどボールにあまりさわれない友だちのことを考えていない。だから、一人一人の思いや願いをお互いに知り合うには、この「振り返り評価」は大変有効である。しかし、この文章だけではゲームのより具体的な事象がなかなか見えてこない。そこで、私は支援の一つとしてゲーム中、ボールパスの軌跡をとっていた。そして、ここに出てきた第３時にセザンヌチームが行ったゲームのボールパスの軌跡は、次の通りである。

表１　セザンヌチーム　３時間目のボールパスの軌跡（数字は、児童のゼッケンの番号）

12	12—Ｓ	
12—８	８—12—12	
１—12	８—12	
12Ｓ	６—８	※Ｓ児のゼッケン７
８Ｓ	８	※Ａ児のゼッケン６
８Ｓ	８	※Ｓ—シュート
７—８—12Ｓ	８	

子どもたちは、この軌跡を見ることにより、Ｓ児とＩ児が書いた「振り返り」がより具体的なものになり、二人の思いや願いがよく理解でき、次の学習に生かされるものとなる。そして、学習を積み重ねた第６時には、同じセザンヌチームのボールパスの軌跡は次のように変わった。

表２　セザンヌチーム　６時間目のボールパスの軌跡（数字は、児童のゼッケンの番号）

８	８—７	※Ｓ児のゼッケン７
８—７Ｓ	８—12	※Ａ児のゼッケン６
12—８—７—12Ｓ	８—12—７	※Ｓ—シュート
８—７—８	６—７—８	
12Ｓ	６—12—７—８—７—12Ｓ	
８—７—12—７Ｓ		

明らかに子どもたちの技能は上達し、先ほどのＳ児、Ａ児もたくさんパスをしたり、受けたり、またシュートもできるようになっている。このように子どもたちの「振り返り評価」をより具体的なものにするために指導者の支援を生かす。これが、子どもたちの自己評価を支える支援だと考えている。

さて、セザンヌチームのゲームがどうしてこのように向上したのか分析をした。つまり、セザンヌチームの学び方の変化を見たのが表３と表４である。

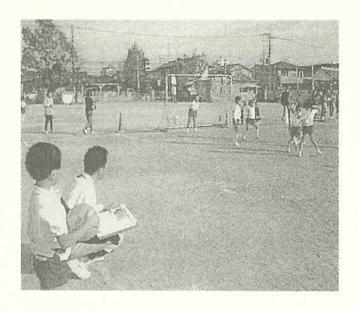
表3　セザンヌチームの学び方の変化・グループのめあての高まり

第3時　かたまって、ボールをとらない。 第6時　声をかけて、チーム全員にパスを回そう。

表4　6時間目のセザンヌチームの作戦

①声をかける。 ②パスをもらえるところへ動く。 ③ボールを見て動く。 ④シュートされたらすぐ広がる。 ⑤ボールを持っている人の近くに行くようにする。

これを見てもわかるように、学習が進むにつれて、めあても作戦もより具体的で、かつ自分たちの課題が明確に示されるようになっている。

このような、「学び方の向上」がこのチーム自身のゲームの向上に大きく結びついていると分析した。そして、ここまでチームを高めた要因の一つに、S児とI児の「振り返り評価」があったことも忘れてはならない。

4　学習終了後の子どもたちの感想から

3年2組　♪いけいけ！♪　ハンドボールゲーム

第一時	①ボールを持って、5歩まで走ることができる。 ②コートからボールが出たら、相手チームのボールになる。ボールの入れ方は自由。 ③得点は2点。ただし、ペットボトルに当たったら4点とする。 ④ゴールの線からボールが出たら、キーパーのボールになる。 ⑤相手のボールをはじいてもよい。 ⑥キーパーも攻めて、シュートしてもよい。
第三時	⑦ペットボトルに当たったら、キーパーボールになる。 ⑧ゴール前にキーパー以外の人が、横に並んではいけない。 ⑨シュートして跳ね返ったボールが、ペットボトルに当たっても2点。 ⑩相手を押したり、たたいたりしたらファールで、その場所から相手チームのボールになる。 ⑪知らないで相手を押しても反則にはならない。 ⑫キーパーの体にボールが当たって外に出たら、コートの角から相手チームのボールになる。
第四時	⑬キーパーは、ゲーム中1回だけ代わってもよい。 ⑭ゴール前の線から中にシュートが入ると、得点になる。
第五時	⑮5歩以上歩いて、ドリブル、そしてまたドリブルはしてもよい。 ⑯ゲームの始まりと終わりには、あいさつと握手をしよう。
第六時	⑰シュートは、ゴール前の半円の中に入ってはできない。 ⑱ゴール前の半円の中に、守りの人が入ってもよい。 ⑲キーパーが投げたボールを受けてシュートしてはいけない。 ⑳キーパーの前で待ちぶせシュートはしない。
第七時	㉑攻めのチームは、半円の中に入れない。
第八時	㉒二人でボールの取り合いになったら、その場でジャンプボールにする。 ㉓キーパーはゴールの線の手前でボールを取らないと点数が入ることになる。 ㉔ボールを持っていない相手チームの人がゴール前の半円に入って守ってもよい。
※時間は、そのルールと約束ができた時を示す。	

Y、R児

私ははじめよりだいぶ上手になってきました。パスされた時も最初よりは落とさないようになったし、パスもよくできるようになったり、キーパーに取られるときもあるけどシュートもできるようになってきました。

私のチームは、初めパスがあまり上手にできなくて弱かったけれど今はもうみんなパスし合ってシュートもして勝てるようになってきました。

家でもお兄ちゃんとバスケットボールとハンドボールのまぜたもので練習して、お母さんとは、お母さんがマンションの一階にあるコンテナにゴミを捨てに行くときにボールを持って行き、捨てた後にジグザグドリブルをしながら帰ったりもしました。そして、それを試合に生かせたのがうれしかったです。

13th HANDBALL GAME
女子世界選手権ビデオ

最新世界選手権

――厳選した熱戦20試合を全収録

各試合7,000円　税・送料別（送料は何巻でも500円）

1997年11月、ハンドボール発祥の地、ドイツで熱狂の観衆のなか繰り広げられた第13回女子ハンドボール世界選手権。デンマークの優勝で幕となった　。アジアの代表として登場した日本はもちろん、韓国、中国も思いっきりの熱いプレーを見せてくれた。

そのうちの熱戦20試合が、スカイ・Aで放映されたが、そのままのクリーンな映像を、編集にあたった株式会社メイスンがハンドボールファンにお届けする。

見た人も見られなかった人も、最新のハンドボール情報を目の当りにするチャンス。本場の熱狂を肌で感じられるだけでも興奮のビデオだ。1本からでも受け付けている。

■協賛／財団法人日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグ機構　■制作協力／株式会社スポーツイベント

品番	対戦	解説	時間
◆予選リーグ			
WH 1	日本 vs オーストリア	池本　聡氏（ジャスコ監督）	70分
WH 2	中国 vs デンマーク	池本　聡氏（ジャスコ監督）	75分
WH 3	日本 vs ブラジル	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	70分
WH 4	中国 vs チェコ	平塚一彦氏（シャトレーゼ監督）	75分
WH 5	日本 vs アンゴラ	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	75分
WH 6	中国 vs ロシア	緒方嗣雄氏（日本協会強化委員）	65分
WH 7	韓国 vs ルーマニア	金原　至氏（立山アルミ監督）	70分
WH 8	日本 vs ポーランド	金原　至氏（立山アルミ監督）	70分
◆決勝トーナメント・1回戦			
WH 9	フランス vs ポーランド	矢内　浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH10	韓国 vs チェコ	矢内　浩氏（大崎電気女子監督）	70分
WH11	ルーマニア vs マケドニア	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	110分
WH12	ドイツ vs ベラルーシ	荷川取義浩氏（北國銀行監督）	75分
WH13	デンマーク vs ハンガリー	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
WH14	ロシア vs コートジボアール	伊藤宏幸氏（全日本女子監督）	75分
◆決勝トーナメント・2回戦			
WH15	ドイツ vs マケドニア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
WH16	ポーランド vs ロシア	西窪勝広氏（オムロン監督）	70分
◆準決勝			
WH17	ドイツ vs ノルウェー	林　五卿氏（イズミ監督）	75分
◆5位決定戦			
WH18	韓国 vs クロアチア	林　五卿氏（イズミ監督）	90分
◆3位決定戦			
WH19	ドイツ vs ロシア	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分
◆決勝			
WH20	ノルウェー vs デンマーク	樫塚正一氏（前全日本女子監督）	75分

実況アナウンス　池本弘三氏（フリー）

■支払方法
現金書留、郵便振替、または銀行振込による前払いです。まずはお電話ください。

●お問い合わせ、ご注文は
☎03-3542-2135／Fax03-3542-2107
MAYSON Co.,LTD.　〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番16号　株式会社 メイスン

平成11年度第2回ハンドボール研究集会
ボール運動教材としてのハンドボールーその2ーを終えて

主催：(財) 日本ハンドボール協会
主管：愛知県ハンドボール協会
後援：文部省、愛知県ハンドボール協会、名古屋市教育委員会

8月16日・17日の2日間に名古屋市緑スポーツセンターで行われた、平成11年度第2回ハンドボール研究集会の報告をします。

《8月16日》

【開会式】
挨拶
大西武三（(財) 日本ハンドボール協会常務理事）
太田耕治（愛知県ハンドボール協会会長）
趣旨説明
角　紘昭（第2回研究集会実行委員会委員長）

【講演】
学習指導要領の改訂のねらいと、そこにおけるハンドボールの今後のあり方が説明されました。以下にその大まかな内容を記します。

「新学習指導要領とこれからの体育科教育」
本村清人（文部省体育局体育官（併）教科調査官）
児童・生徒の「明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成」と、「健康の保持増進」及び「豊かなスポーツライフの実現」を目的として打ち出された新学習指導要領において、小学校でのハンドボールの取り扱いが可能となった。体力のみならず、生涯にわたって運動に親しむ資質と能力の向上には、それへの意欲と関心が必要となる。特に児童・生徒の運動に対する意欲を高めていくには、思考・判断・表現力・技能・仲間との関わり、といったものがキーワードとなろう。
授業時間数の減少に応じて指導内容の厳選も求められている中で、ハンドボール型のボール運動が前述のキーワードに対して優れた教育的効果を持つことが認められた。走・跳・投の運動バランスとボールの操作性に優れ、ゲームにおける作戦行動が比較的容易であるためである。今後はその取り扱いが容易にできるように、指導法を一般化させていくことが必要である。

【研究発表】
各地域の小中学校における授業の実践報告と、教材化の可能性に関する論文発表がなされました。
1 低学年教材「シュートボール」
山本　繁（岩手県水沢教育事務所）
2 ボール遊びの指導に関する基礎的研究（1）
－幼児と園児の運動発達の側面からみて
古関早苗（秋田県川連小学校）、佐藤　靖（秋田大学）
3 中学校におけるハンドボール型のボール運動の実践
信原悦治（岡山県平井小学校）
4 小学校におけるハンドボールの教材化について
宮本真一（秋田大学）、佐藤　靖（秋田大学）
5 中学校ハンドボール授業の実践と投能力の変化
小山　浩（筑波大附属中学校）

【実技研修】
愛知県ハンドボール協会のスタッフの指導で、参加者全員が実際に運動をしました。
1、ボール操作の技能を高める運動
2、ボディコントロールを高める運動
3、ハンドボールにつながるリードアップゲーム
紹介されたのは大きく分けて3つ。皆さん本当にコドモになっていました。

《8月17日》

【授業提案】
小学校中学年と高学年の授業が実際に行われ、参加者は見学しました。
◆中学年授業者：
小島信行（山吹小学校4年生、7時間中5時間目）
◆高学年授業者：
鵜飼克博（名東小学校5年生、7時間中6時間目）

【講義】高橋健夫（筑波大学体育科学系教授）
授業を見学し、評価をする際の5つの視点（授業の雰囲気・勢い・学習環境・児童の意欲・学習効果）を示唆し、球技・ボール運動ではルールや作戦・戦術への認識を深める必要性があることを述べられました。次に、それらの問題の対処には球技分類論的視点からみると、攻防入り乱れ型のハンドボール型ゲームがふさわしいことが述べられました。さらには各参加者（第48回読売教育賞「体育の教育」部門最優秀賞受賞者の西川潔氏を含めた4名）との応答の中で、課題ゲームの工夫による教材化と児童の生活への定着化や、ゲームパフォーマンスの評価法の工夫などを求められました。

【閉会式】
〈最後に〉
2日間という短い期間でしたが日本全国から数多くの研究者が集い、今回のテーマであるボール運動教材としてのハンド

ボールの可能性について、活発な意見交換が行われました。さらに、今回の研究会で使用されたボールやゴールは、学校体育に適するように新しく開発されたもので、参加者達の熱い注目を浴びていました。この研究集会が定着し、各地域での地道な研究・実践に大きな弾みがつけられることを祈ります。

文責：村山明夫（神奈川県立六ツ川高等学校）

第2回ハンドボール研究集会に参加して

村山みどり（元ナショナルチームGK）

4月より中学校の男子ハンドボール部の外部コーチをすることになり、初めてハンドボールというスポーツを体験する子ども達にどうしたら楽しく指導できるか、また、ハンドボールのおもしろさをどうしたら伝えることができるかということに不安を感じた。

そこで、8月16日、17日に名古屋緑スポーツセンターで行われた第2回ハンドボール研究集会に参加した。この研究集会では、主に小学校の中学年と高学年におけるハンドボールを題材とした授業の実践を研究発表や実技研究、授業提案を通して勉強することができた。

その中でも特に印象深かったのが、2日目に行われた授業提案であった。子ども達がハンドボールを知り、「おもしろい」「もっとやりたい」と思わせる工夫がいたるところにあり、見学しているだけでも楽しめた。そして、授業が終わり、後かたづけをしていた子ども達が口々に、「ああ、おもしろかった」とにこやかにしていたことにとても感動した。

そして、この研究集会での資料をもとに中学校での部活動にいくつかのボール操作の技能を高める運動を実際に取り入れてみた。1年生にはとても好評であったが、2年生には物足りなかったようであった。これらの運動は特に入部したての1年生に行うとハンドボールに親しみ、基本的なボール操作を身につけるといった点で大きな効果があると思う。

今回、この研究集会に参加して諸先生方の日々の努力を肌で感じることができた。私も今まで以上に工夫をして子ども達がよりハンドボールを楽しむことができるようにしたいと改めて考えさせられた2日間であった。

最後に、私は中学校からハンドボールを始めて、全日本選手になることができ、選手としての自分には満足している。しかし、この研究集会では、ハンドボールを今までとは違った教える側の視点から見ることができ良かったと思う。

がんばれハンドボール10万人会情報

平成11年4月よりスタートしました「がんばれハンドボール10万人会」は、3月下旬より、会員の入会があり、北は北海道から、南は沖縄まで、全国各地から入会が広がっています。各都道府県では、本制度の周知について多少の差があり、入会状況にも表れております。本制度は、21世紀に向かってハンドボール競技の発展に大きな鍵を握っているものですので、新会員の入会勧誘をよろしくお願いします。

本号では、これまでの入会者のお名前を掲載いたします。今後の新入会者については順次掲載していく予定にしております。

《がんばれハンドボール10万人会担当からのお願い》

がんばれハンドボール10万人会では、夏の大会も終わり着々と会員数を伸ばしており、入会申込書が続々と日本協会宛送付されてきております。

この中で、一部書類記入について不備があり、手続きに若干手間取っております。日本協会より確認の連絡を随時取っておりますので、ご面倒でも早急にご回答下さるようお願い申し上げます。

また、今後の申し込みの際は、以下の点を間違いなくご記入下さるようお願い申し上げます。

1、グランド会員、ファミリー会員の申込の区別を正確に○印を付けて下さい。

2、プライバシー保護のため、送付面に電話番号欄を設けませんでしたが、種々連絡のため必要が出てまいりましたので、内面の氏名欄に、自宅電話番号をご記入下さい。

3、所属欄には、募集母体の加盟団体名をご記入下さい。ご記入なき場合は、日本協会扱いとさせていただきますので、よろしくご了承下さい。

以上の点でのトラブルが多く発生しておりますので、配布の各加盟団体担当者の方々には、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

会員名簿

【北海道】駒林昭三、松　喜美雄、笹川賢俊、友師恭子、小島収治、渡辺晶子、小林　礼、山辺文彰

【青森】鎌田孫秀

【岩手】中舘　豊、多田和生、上町祐隆

【宮城】山路康男、菅間　進

【秋田】高橋　肇、古関和子、佐藤ユリ、松岡則夫、佐藤直子、熊谷美香、山本　勲、古関兵衛、阿部　憲、高桑繁幸、山崎ミホ、久米幸拓、佐々木円華、高橋理絵、高橋有香、中野義勝、相馬優香理、鎌田由香、後藤達美、冨樫綾美、佐藤由紀恵、田口真央、小原麗子、千葉未貴、安達翔子、草彅　恵

【福島】今野雅益

【茨城】田中汀子、小野俊弘、北村善夫、佐竹理容室、住尾　勉

【栃木】八木　豊、石田正彦、岸裕幸、前田達也

【群馬】伊崎克巳、宇佐美幸彦、北村厚子

【埼玉】岡村昭二、田中　孝、西山逸成、伊藤　良、平田順二、新島信太郎、西濱弘幸、松山幸雄、関口一弘、高田　誠

【千葉】三井　信、植村　彰、石橋　茂、石橋美保、木内久美子、木内兵太郎、坂本静男、小出留里、稲生道子、内野洋子、佐々木徹行、奥村寛太、鳥羽信好、斉藤達之、嶋田俊一、大貫芳美、三浦　修、西村孝雄

【東京】河内鋭雄、佐藤佳子、市原茂子、緑川正博、早坂美由樹、田島悦子、原田弥生、今井敬之、出原　理、山中重宣、藤本健太郎、穴沢幸夫、野田秀一郎、瀧浦祐子、増渕潤一、甲南包装工業、宮沢裕樹、萩原宏人、杉山茂、大村照幸、仙波厚子、美之口竜生、長田　敦、松本隆平、杉山広樹、川本孝夫、兼子　真、千葉裕典、南木雅弘

【神奈川】植村　繁、臼井鉄久、渡辺亜由美、杉山義祥、吉澤和美、近久紀人、堀内英彦、五島孝彦、中野俊裕、真田佐恵美、岡田　賢、山本　剛

【山梨】千野恒夫、小池道春、藤崎　誠、平岡秀雄、斉藤節子、天野盛夫、渡辺英彰、横森　巧

【長野】小口政則

【富山】光安美津夫、藤井清勝

【石川】酒谷信彦、古橋幹夫、星野藤盛、井川邦彦、鳥越浩二

【福井】田中昭一郎

【静岡】帯金充利、清水保雄、山田久美子

【愛知】太田耕治、稲住晋二、早川弘三、村木啓作、角　紘昭、長谷川富佐子、浅野克彦、蒲生晴明、佐藤由佳、増田喜久、安藤孝

【三重】小林良典、大石博義、木戸地浩三、栗本士郎、岩瀬由恵、喜井翔一、喜井久美子、喜井たか子、梅基幸一、田村金子、平賀達也、西村亮治

【岐阜】斎藤和義、杉山二女代

【滋賀】岸下清登、出口敏之、原吉輝、小林重幸

【大阪】寺内啓之、森本正毅、塩川正十郎、四方洋子、宍倉保雄、中川晴美、幸田知子、幸田富久子、幸田敦子、志賀良弘、古庄誠、家永昌樹、奥野隆司、山崎武、山下知子、㈱イデイ、緒方嗣雄、陰山　登、川口順弘、松本義樹、草ノ井文子、服部秀人、山本伸二、㈱光エージェンシー、繁田剛士、南　晶子、長川由美子

【兵庫】殿水幸雄、松本直人、狩野幸介、佐藤琢也、河野芳弘、新宮良介、新宮蓉子、新宮昂史、新宮資央、山原一晃

【奈良】佐々木英明、森　覚

【和歌山】田中秀和、能木　進、山田　進

【岡山】片山　透、木村理英、藤井俊朗、厚沢フサ子、厚沢嘉身、森井　勲

【広島】大井隆史、市原竜太、大橋季彦、上松京子、尾上匡信、上垣内　光、木村　滋、河野　二、郷田典秀、高本統夫、田中壮二、西元成憲、綿平協生、広住　誠、村瀬正機、矢野エイ子、両徳良樹、今田博、菊岡正敏、倉澤孝、黒川正明、河野洋右、小谷孝二、小谷洋二、佐々木和登、末田清則、立花ひろし、西田文子、橋本令子、花高実喜、馬場雄大、坊　光央、向井　明、向井信行、山本　功、加藤将巳、塩見　博、東　敏行、東　睦美、深見逸子、槇岡達也、槇岡照子、行竹奈保子、入本富男、岡村かおり、加藤真紀子、窪田亜希子、河内瑠香、小藤佳美、財津佳与、重田理絵、谷　茂、田丸政治、中本和明、長谷川耕二、林　竜二、幡司美緒、村岡麻奈未、湧山絵美、紫苑、山崎咲弥、伊藤　顕、空健司、森岡　勝、山崎正則、郷路晴彦、篠原義昭、胡浜茂夫、下田修三、松田育子、木坂直樹、迫広清士、樫本隆弘、築地至大、立川正史、竹広真理子、富永秀雄、山本康則、沖田　稔、清永宏隆、光実和之、安達正俊、瀧川都子、川本義昭、柏原信行、高杉国男、高杉涼子、高杉直樹、高杉達也、高杉巳恵、今田浩司、松谷由美子、山口由香、小沢布美子、中山真由美、河原ゆう子、田中保奈美、藤本文子、加川浩子、大内田宏生、小吉川清人、延近眞也、白井祥敬、松井　攻、鈴木あゆみ、山坂　清、酒井幸雄、松元孝次、松浦五月、池田邦昭、樋野村　勉、下原康男、升田久恵、荒川正人、木村　勉、大足伊世夫、高田順三、角　慎一郎、西野　明、三好健一、藤田洋子、長尾久恵、松尾裕彰、井手長翁、国広正行、井上啓次郎、小笠原靖、本多実秋、久保光子、浜本美紀、山本雅幸、西川恵美子、長和俊史、小寺幸広

【山口】岩本愛生、岩本康博、岩本幸子、藤野澄江、渡辺孝行、渡辺イソノ、村上俊雄、村上　大、白井謙次、森田俊介、西川精二、明石雄次、廣政清純、織田正則

【愛媛】森口隆史、村上　忠、中川英二、安井典子、越智　武、佐藤　実

【香川】小早川道孝、枯木昌則、岡川昭博、柴崎好正、西川和正、玉本文雄、近江秀敏、地濱　強、横田百合子

【徳島】竹内晃久

【福岡】上田謙二、桐明　正

【長崎】杉原ゆかり、竹林　勝、青木忠久

【熊本】松本恵子、村上好江、佐久間克彦

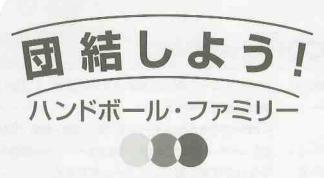
【大分】幸　敏明、小野真知子、種崎建夫、吉良利夫、梶原　崇、西江　隆、児玉寿敬

【鹿児島】野口智春、井料たか子、池ノ上孝司

【沖縄】新垣安伴、多和田真尚

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会

団結しよう！

ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

●HANDBALL　FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

財源確保

各種事業への活用と充実

- ○小・中学校の普及
- ○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ○ミニハンドボール競技の導入
- ○ジュニア層の重点強化
- ○各大会の補助金アップ
- ○国際大会の招致
- ○一貫指導体制の確立

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

●10月の行事予定

■第54回国民体育大会

10月24日～28日／熊本県山鹿市・鹿本町・鹿央町・本渡市・松橋町

■常務理事会

10月9日（土）／代々木第二会議室

■全国理事長会議

10月23日（土）／熊本県・JA鹿本会館

■第24回日本リーグ

★10月2日（土）

福井市／彦根市／四日市市

★10月3日（日）

富谷町／東京都／知立市／栃木市／宮崎市

★10月6日（水）

栃木市

★10月7日（木）

徳山市

★10月9日（土）

富士見市／名古屋市／鈴鹿市／広島市／大阪市／西宮市／熊本市

★10月10日（日）

本宮町

★10月14日（木）

徳山市

★10月16日（土）

松岡町

※10月の日本リーグ放映予定

★10月3日（日）19：00～20：30

ＴＶＫ

三陽商会×本田技研

★10月9日（土）19：00～20：30

ＴＶＫ

湧永製薬×三陽商会

●機関誌委員会より

①年度当初の登録の際の連絡に従い、今号は平成11年度チーム登録をした小学生、中学校チームへ贈呈されます。それに伴い記事に多少の偏りが生じております。ご了承下さい。

②記事の配分の関係上、８月に行われました全国教職員大会、マスターズ大会、全国高等専門学校大会、ビーチハンドボール大会、東西クラブ選手権大会、東西学生選手権大会の結果につきましては11月号に掲載いたします。

③連載中の「列島縦断／福岡県の巻」「世界の技術・戦術に学ぶ（ゴールキーパー編）」は11月号に掲載します。

④機関誌委員会では、全国会員の皆様の声を広く伝える場として機関誌紙面を活用していただきたいと考えております。皆様の投稿をお待ちしております。詳しくは機関誌389号（1998年９月号）をご参照ください。また、ご意見、ご希望等ございましたら日本ハンドボール協会内機関誌委員会宛お願いいたします。

●求職情報

私はPredrag　Seifulovski、27歳です、186cm、87kgです。

私のポジションは右サイドと右45度です。

現在マケドニアでプレーをしていますが、かつてはResenのPrespa　Jafaでプレーしていました。ユーゴスラビアのノビサド在住です。Prespa　JafaはチャンピオンリーグEに所属し、IHFカップではドイツのLemgoと準々決勝で対戦しました。

Prespa　Jafaでプレーする前は、Vojvodina,Vrbas,“Metaloplastika”でプレーをしていました。

もしも可能であれば貴国のチームでプレーをしたいと思います。

私がプレーをしているビデオをご希望であればお知らせ下さい。

ご連絡をお待ちしています。

Predrg　Sejfulovski

＊ご希望の方は日本協会事務局までご連絡ください。

HAND BALL CONTENTS OCT

柔らかな感触で、最適なバウンド！

new

新発売

new

new

PKCH3-AD DX
5,500円

PKCH2-AD DX
5,400円

アデランテ　前進

PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH3-ADR
2,800円

PKCH2-ADR
2,700円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四〇一号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十一年九月二十六日印刷 平成十一年十月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 市原則之

価格は登録金に含む